平成29年度

国東半島宇佐地域世界農業遺産

高校生「聞き書き」作品集

Contents

＊この作品集は高校生により作られたものです。

Column 平成29年度高校生「聞き書き」作品集 発刊に寄せて ／ 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長　林 浩昭　2

長崎鼻に花を咲かせる ～耕作放棄地から始める地域活性化～　3
話し手 近藤 哲憲(大分県豊後高田市)×聞き手 南 亞聖・前田 恵李(大分県立高田高等学校　普通科)

伝えたい木の文化、残したい美しい森　8
話し手 福田 明彦(大分県杵築市)×聞き手 本田 聖奈・森 愛実(大分県立国東高等学校　園芸ビジネス科)

土手つき唄から聞こえてきたもの ～人間の生きる力～　14
話し手 一川 良寧(大分県国東市国見町)×聞き手 尾崎 優作・成重 光・浜田 こころ(大分県立国東高等学校双国校　総合ビジネス科)

牧場を教育現場に ～若手酪農家の取り組み～　19
話し手 田畑 修一(大分県杵築市山香町)×聞き手 船木 たま美・真砂 海翔・高橋 知花(大分県立杵築高等学校　普通科)

試行錯誤の耕転事業 ～川をよみがえらせた青ノリ採り名人～　25
話し手 小野 高則(大分県宇佐市)×聞き手 川嶋 勇輝・渡邉 康太(大分県日出総合高等学校　総合学科)

若手農家の決意 ～農業が途切れることなく、ずっと～　31
話し手 高原 淳平(大分県速見郡日出町)×聞き手 徳光 真衣・永松 志菜(大分県立宇佐高等学校　普通科)

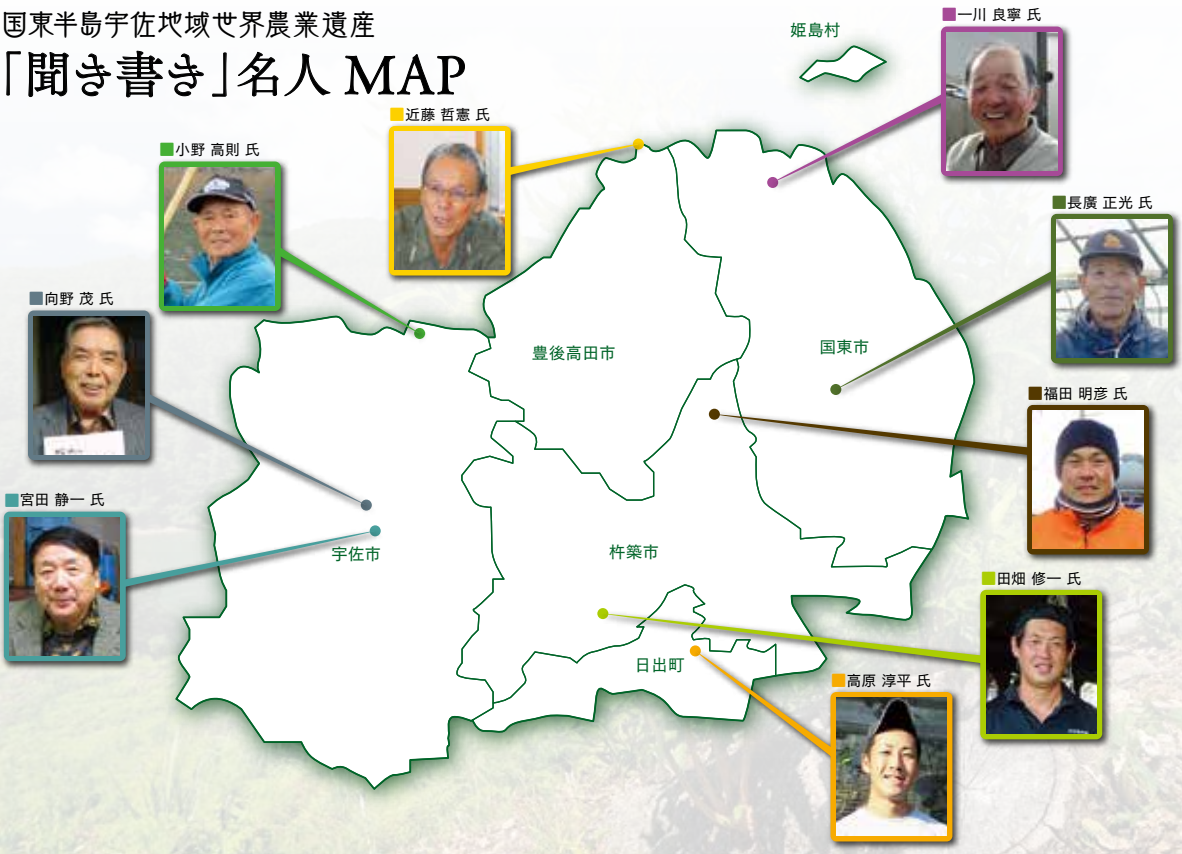
石橋への思い ～石橋を愛してやまない男～　40
話し手 向野 茂(大分県宇佐市院内町)×聞き手 植垣 小雪・西尾 隆馬・宮脇 海(大分県立宇佐産業科学高等学校　グリーン環境科)

農業・農村の未来のために ～安心院のグリーンツーリズム～　45
話し手 宮田 静一(大分県宇佐市安心院町)×聞き手 加来 健史・藤田 統也(大分県立安心院高等学校　普通科)

ブランドねぎ作りを次世代へ ～生産拡大と大学との交流～　50
話し手 長廣 正光(大分県国東市武蔵町)×聞き手 柴田 恭典・四丸 博海・矢野 幸四郎(柳ヶ浦高等学校　普通科)

国東半島宇佐地域世界農業遺産

「聞き書き」名人 MAP



平成29年度高校生「聞き書き」作品集 発刊に寄せて

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長　林 浩昭

私は、国東半島宇佐地域世界農業遺産高校生「聞き書き」作品集を毎年楽しみにしています。なぜなら、高校生が大胆に取材しながらも繊細な言葉で表現した文章で、この地域で農林水産業や関連産業に携わっている人々の人生を読むことができるからです。

平成 29 年度の「聞き書き」作品集原稿が届き、今読み終えたところです。今回も、農林水産業に真摯に向き合いながらも社会の変革に取り組んでいる人々の姿を、高校生が驚きでとらえている様子が読み取れ、面白い。このまま何もしなければ無くなってしまうような農林水産物生産の仕組み、民俗芸能、社会組織やインフラを保存し次世代へつなげる取り組みの「聞き書き」には特に注目したい。それは、世界農業遺産のキーワードの一つがレジリエンス (復元力) であるからです。単に復活というだけではなく、多くの住民の考え方や法律までも変えてしまう取り組みに高校生は衝撃を受けたのではと想像しています。「ゴールはない、ずっと。要は人間だから、それは次の世代にどうつなげるか。つなぎをどう作るかっていうことになるんであって。だから成功なんちいうのはない。」という近藤哲憲さんの言葉を切り取った高校生に思いを馳せています。自分の意思を強く持ち何があっても諦めない生き方に、私も強く勇気づけられました。

世界農業遺産の認定基準の一つは生計の保障です。厳しい農林水産業を営みながらも生計を維持し、自分の子どもたちに望む教育を受けさせることができる、そのような仕組みが構築されている必要があるのです。今年度の「聞き書き」作品集を読んでみると、国東半島宇佐地域が、日本中から様々な形で農林水産業に携わる人々を受け入れてきた歴史があることもわかります。遠くに行かないでくれと懇願する年老いた両親に頭を深く下げ、子どもに高等教育を受けさせるために国東半島宇佐地域に入植してきた人たちの歴史にも高校生は注目しています。国東半島宇佐地域、その中でも別府湾側のほとんどの農家は、かつてシチトウイ（カヤツリグサ科工芸作物）を栽培し畳表を生産販売していました。究極の六次産業が江戸時代から続いていたのです。真夏の重労働や夜なべ仕事の表織り作業など、つらい作業でしたが、私たちの親世代は子どもに高等教育を受けさせるための授業料や下宿代を捻出するために、歯を食いしばったのでした。高校生は「聞き書き」の活動を通じて、慈悲深い家族や地域の人々の想いも受け止めてくれたのではないかと秘かに期待しています。

国東半島宇佐地域で平成 26 年度より毎年、高校生「聞き書き」作品集が発行されていくことは、すばらしいことだと思います。すでに 30 名を超える人々の人生を、いつでも読むことができる「聞き書き」作品集に高校生が収めたのです。高校生の頑張りを何よりも讃えたいと思います。私自身も、これからも多くの人々の人生と触れ合っていきたいと考えています。「聞き書き」の活動にご協力いただいている農林水産業者の皆様、ご指導いただいた教育・行政関係の皆様に深く感謝申し上げ、今後もご支援をお願いしたいと考えています。NPO 法人共存の森ネットワーク理事・事務局長の吉野奈保子氏には、暗中模索状態の高校生に「聞き書き」を通じた地域のとらえ方、インタビューや文章表現に関する具体的指導、そして何より高校生の心の中に「地域から学ぶ意義」を植え付けていただいていることに、心よりお礼申し上げたい。

長崎鼻に花を咲かせる

～耕作放棄地から始める地域活性化～

近藤 哲憲（大分県豊後高田市）

聞き手：南 亞聖・前田 恵李（大分県立高田高等学校 普通科）

関西からのUターン就職

名前は、近藤哲憲です。昭和 22 年の 9 月 26 日生まれで、70 歳です。今は、僕と奥さんの二人で生活しています。兄弟はね、僕と妹がおるだけ。

出身は、豊後高田市の草地、猫石というところです。立命館大学に行って、関西で就職して、54 歳まで流通業しよった。そこから親が病気になったっていうんで、介護のために会社辞めて田舎に帰ってきて、今は香々地の見目っちいうところ（旧香々地町）に住んでる。奥さんもこっちに移ってくるっていうことが前提やったから、先にこっちに帰ってきて、一人で両親を 8 年間介護してる。24 時間勝負で大変やったよ。

介護が一段落ついて、親が施設に入れるようになって、市長に長崎鼻（国東半島の先端あたりに位置する旧香々地町の岬）が何とかならんかということで、ここの活性化をやらないかと頼まれた。前にも直売所が不振なんで助けてくれとかな、市の仕事を手伝いしよったからね。じゃあ今の仕事をしようかと思いまして、平成 22 年から仕事に携わってるかな。奥さんも一緒にここ手伝ってくれとるよ。

僕らが来た頃は、長崎鼻はもう何もない閑散としとった場所やったけ。ただ景色はいいわな。だから何もない素材であって、純白なわけや。地元の人は「何もないから何もできない」というけれども、中途半端に何かがあるとそれが邪魔になる場合があるし、「何もないから何でもできる」という発想がそこにあるかどうかや。

何もないからこそ　できることを

始めた当初の目標は、観光地として廃れていっとる長崎鼻をどういう風にしたらようなるかなということで、豊後高田市の「B」と、ここ長崎鼻は香々地やったから「K」をとって、平成 22 年に長崎鼻 BK ネットっていう組織を作った。組織を作らんことには何も前に進まんから。基本的に何をどうしたらいいんやということをみんなで考えながら、再生に取り組んだっていうのが第一弾の取り組みやね。

開始時の困難はな、最初は耕作放棄地。耕作放棄地やるのは大変やったよ。肉体的なもんだけやない。耕作放棄地の地権者を全部調べないかんわけ。100 件ぐらい。これはもう大変やった。徹底的に耕作放棄地やったから成功したんであって、中途半端に耕作放棄

地やったら、たぶん成功はせんかったと思う。

後は予算を取るのが大変やったな。たとえば施設を作る時は何千万のお金が必要になるわけや。お金がないから県と市にお願いして、法人にせんと銀行も貸してくれんわけ。だから無理矢理、長崎鼻 BK ネットを NPO 法人にしたわけやな。それで平成 28 年に NPO 法人長崎鼻 BK ネットに変えた。

耕作放棄地　開墾前

景観要素がいかんなぁっちいうことで、耕作放棄地事業に入ったわけやんな。耕作放棄地っちいうて、それをまた荒らすわけにはいかんから、花公園化して、花を観光の名所に持っていくわけ。そこで、花があるんやったら、「お金になる花はないかなぁ」っていうことで。「油になる花があるよ」ってな。「それなら油の花にしようか。それで、「油の花を植えれば、それを収穫する機械がいるな」、「油を作るんやったら、油を作る場所がいるな」とかいう感じでもって、いろんな切磋琢磨して、県と市が前向きに協力してくれた。

視点を変えて見る　思い出の長崎鼻

本当にここの周りには何もない。すごいようになっちょったから。でも地元の人はその景色を毎日見とるから、それが当たり前になるわけ。けれども外からものを見れば見方が変わるんで。ここの取り組みも、僕らみたいな移住者と、地元の人と、あとは若い人とかね。3 種類のタイプで構成して、それにプラス県と市が応援してくれるっちいう仕組みで、ここの取り組みが始まったっちいうのがきっかけやね。

戦略みたいなことするのが趣味なんよ。サラリーマンの時からそうやったけども。いろんなことを考えて、やったことがどうなるかっていうのを自分で想像して、その通りになったら嬉しいやん。喜びがあるやん。成果がな。だから中期計画っていうのをしっかり立てて。一つは「観光客はどういう風に増えていくやろう」というのと、産業もやってるから「商売はどういう風になるやろな」という二つで、流れを作っていこうとした。今も、その流れでやっていってるけどもね。

長崎鼻一体に広がる 満開のひまわり

ひまわりは景観用、油用、お菓子用とか、2 ～ 3 種類ある。最初は、景観用にひまわり植えとったんよ。景観用は 20 数パーセントしか油分が入ってない。けど、油用のひまわりっちいうのは 40 数パーセントの油分が入ってるわけ。

平成 24 年か 25 年かな。ネットでずっと新しい品種探しよったらね。オレイン酸っていう成分が結構高いハイブリッド種っていう品種があるのを見つけて。アメリカのとうもろこしを日本に輸出してる会社に電話したら、その会社の日本営業所が熊本にあったんよ。それで、アメリカから取り寄せてもらってる。日本でもまだ市場にこの油出しとるの、うちぐらいかな。だから、あまり知られてない。

油を作るための菜種とひまわりの種

市販の油の危険性　健康でいるために

最近の病気は病院に行っても治らん。生活習慣病とかな。何でそうなったかというと油なんよ。要は脂肪食。昔は和食やった。今やったら洋食っていうのは、脂肪食なわけよ。それと、皆コンビニとか色んな店に行ったり、利便食なわけよ。そこに使われとる合成添加物ていうのが、すごい身体に悪さをする。何が悪いかというと、活性酸素。今の病気の９割方はそれが原因なわけなんやなぁ。それと過酸化脂質。活性酸素と油がひっついたやつが過酸化脂質ていうんやけど、これがずっと腎臓から出らんわけや。それが人間に悪いことするわけや。みんな平気で摂っているけど病気になるよ。だから一番大切なものは油。油が大切なわけなんです。

時間をかけて　丁寧に
「自然のまま」を徹底した、こだわりの手作業

商品になるまでにかかる時間は、たとえば、種をまいて60日で花が咲く。そこから40日で熟して、収穫、乾燥、そんで搾油するから、種をまいてから商品になるまで５ヶ月ぐらいかな。

まず、ひまわりの種をコンバインで収穫して乾燥するわけ。次に、焙煎っていうかな。種に熱を加える。このときあまり高い温度にしたらダメなんよ。酸化するからな。だから70度くらいの低温で焙煎する。そっから圧搾。押しつぶして、種を油かすと油に分けて、その油をろ過していく。真っ黒けやからな。最終的には黄金の色になっていく。

菜の花の場合は90度以上で焙煎するんやけども、ひまわりは酸化するから90度までしたら駄目やから。70度くらいの低温で焙煎をする。そんで油分を取り出しやすくする。

そこからは順番に保管して、必要な分だけ保管した順番に搾油して、商品化していくという１年間のスケジュールやね。

搾油はいろんな薬品とかを使ってないから、精度を上げてきれいなもん仕上げるのに、ひまわりの場合は一工程10日かかる。汚れとか、蝋とかいろんなのが入っとるのを、温度を下げながら自然な方法で落とすから時間がかかる。ただ油を搾るだけやったら１日、２日で出来るけどもね。普通の市販されとる油っちいうのは、苛性ソーダとか化学薬品で余分なものを取り除くから、時間がかからないわけや。あとウィンタリングシステムて言って、蝋成分をとる工程が最後にある。それが４、５日かかって一番長い。ほかは１日ぐらいでできるけどもね。

春は、畑の管理が大変なんよ。15haっていうすごい広さがあるし。それに収穫とか、植え付けとか。そういう作業も１年間あるわけや。農業面で忙しいのは６月とか、10月とか。7、8、９月は観光面で忙しいね。夏の海水浴とか、ひまわりのこととかで、とりあえずもうフル回転。１年で一番忙しいよ。それと加工と販売の仕事もあるし、一人三役やないと、やっていけない。

長崎鼻　全国へ

全国のね、農林水産省の花のまちづくりコンクールというのがあるんやけども、花の景観づくりをしとるところがいっぱいあるわけや。その大賞の農林水産大臣賞ていうのをうちが27年度とったわけやけども、それで全国にひまわりが知られだした。だから東京行っても結構、長崎鼻のこと知っとる人おるから。全国的に知られたら、その価値の大きさっちいうのは計り知れんもんがあったな。空港なんかで商品置いとるけども、東京に行くときにお土産にターミナルでうちの商品買っていく。うちはターミナルの売り上げも結構大きいんよ。そういう小さなところまで成果が出てきとる。

完成した菜の花油とひまわり油

人口問題と向き合う　地域活性化のこれから

豊後高田市とか、まぁこういう観光地っていうのはここに来る交流人口っていうのが一番大切なんやけども。要は、都市から観光に来てもらう。活動をやりだ

した当初は、1 年間で 2 万人くらいしか観光客が来てなかったんよ。今は 7 年くらい経ったんかな。10 万人くらいになってるから。じゃあ、50 万になるためには何が必要なんか、それをさらに 100 万にしようと思ったら何が必要なんか。たとえば京都とかかな。ああいう観光地って何千万人って来るわけやろ。だから、もう終わりはないわ。とりあえずね。

今やったらここだけやけど、これから先、国東半島各地との連携活動とかいろんな夢は将来出てくる。だから今、「ここから 20 万人に交流人口を増やすにはどうしたらいいんか」というのが、これから 3 年、4 年計画。後は移住者ね。人口が減っとるから、移住者を何人雇えるか。毎年移住者の人を何人か雇ってるから、移住者専用に、ひとつの会社をこの前作ったんよ。「油花」っていうね、株式会社を一個。それが移住者を雇うための起業方法。今、NPO 法人長崎鼻 BK ネットがあるんやけれども、それと連携する感じで移住者を入れることを目的に作ったから。片方で、そういう移住とか、若者が働く場所を作りながら、また片方で、観光客、交流人口を増やす。

もう日本全国どこも今人口の問題が一番大きな問題だから。豊後高田市も今 23,000 人おるのが、2060 年には 12,000 人になるわけや。2 分の 1 くらいやな。で、この香々地地区っちいうところは豊後高田市の市街地から遠いわけやん。ここの生活圏がいるわけ。ここ今 3,000 人くらいおるんよな、人口が。それが 2060 年には 1,200 人になるわけ。1,200 人になったら、スーパーも何もかもなくなってしまうわけやな。その頃、僕らが生きとったら年寄りやで。だから、生活大変なんよ、わしら。そういうのもあって、ここで出来るようにするには、長崎鼻はこの地域の拠点になっとる。交流人口を 20 万人から 50 万人と増やしていけば、ここに経済圏が成り立つわけや。外部からお客さん来るからいろんな商売が成り立つ。ここで商売ができるようなるわけな。冬やったら車で来るからガソリンスタンドも成り立つし、スーパーも成り立つしね。やっぱ大きな柱になってくるのは人口の問題をどういう風に解決するかっていうことが、地域をどう活性化するかというのに取り組んでる人らの一番の大切なところやと思う。

稼げんことにはね、絶対に地域って成り立たんのよ。やっぱり稼いだものをどういう風に使われるかが問題で、地域にどう還元できるかっていうことが一番大事なことで。それでもって地域の経済自体が上がるわけや。地域ってのはお金で回ってるんやから、お金をより大きく回していくというのが、一番大事やと思う。

何でもかんでもみんなの意見を組み入れながらやろうとしたら、最大公約数のもんしかできないから中途半端なるわけよ。だから一つコンセプトを持ったら、反対があろうが、こうやると決めたのを率先してやる人が少数意見であれ、それを押し通すってのも、こういう何もないところで物事をする場合は必要なことやと思うよ。

死ぬまで走り続けないかんわけや

最終目標っていうのは、絶対に決まらんと思う。ここまで出来たら、次の目標がでてくるわけ。そこになったら、またそれでも満足できんで次の目標。だから基本的に事業なんていうのは、何をするにしても成果なんちいうのは基本的にその時点では出らんわけで、課題ばかり出てくるだけの話。満足したらおしまいや。だからまぁ、死ぬまで、走り続けないかんわけや。それが出来た時点で、それを否定して初めて次のステップに入れるわけやから。だからそれをやめたら僕らも仕事辞めて、違う人に渡す方がいいと思うとる。

いっぱいすることあるんよ。今、観光と六次産業をやってるけども。これにまた医療を押し付けようかなと。要は予防医療を観光と産業の中に入れ込もうかっていう難しい課題に今入ろうとしてる。それが滞在型かな。観光客の人も一週間ぐらいおって泊まったらな、「ストレスを何も感じんで、精神的な病気も治ったよ」とか。健康的な食べ物、あと油に関しても薬というように加工品が作れるから非常にいいかな、という感じでもって。予防医療的な滞在型の場所にしたいわけ。要は、病院に入院するんじゃなしに、ここに入院してもらうみたいなことやね。

建設中の療養用住宅

ゴールはない、ずっと。要は人間だから、それは次の世代にどうつなげるか。つなぎをどう作るかっていうことになるんであって。だから成功なんちいうのはない。

［取材日：2017年10月7日・11月25日］

Profile

近藤 哲憲【こんどう てつのり】

生年月日：昭和22年9月26日
年　　齢：70歳
職　　業：NPO法人長崎鼻BKネット 理事長
　　株式会社油花 代表取締役

略歴

▶立命館大学卒。関西で54歳まで流通業を経験し、その後、両親の介護のために帰省。ひまわりの種を活用した、こだわりの搾油方法でひまわり油を生産し、あわせて、花とアートの岬「長崎鼻」の観光地拡大を進める。

【取材を終えての感想】

私は、今回で２回目の聞き書きでした。１年前に参加したときは、何もわからなくて終始緊張していましたが、今回はあまり緊張せずに取材できました。今回、近藤さんに取材をさせていただき、普段あまり気にしていない油について多くのことを学びました。１回目の取材で、取材内容の大半を聞けましたが、冊子に必要な写真があまり撮れていませんでした。２回目の取材では、１回目の取材でもっと詳しく聞きたいところなど、より深くひまわり油のことについて理解できました。今回の聞き書きでは、地域活性化についてだけでなく油の話も聞けたので、とてもいい経験となりました。

（2年　南 亞聖：写真右）

今回、初めて聞き書きに参加し、活動を通して学び得たものがたくさんありました。最初はわからないことばかりで自分に務まるかとても不安でしたが、研修や取材は貴重な体験になり、参加できて良かったです。

近藤さんにお話を伺った際、観光事業にあたり、「地元の人は何もないから何もできないというけれども、『何もないから何でもできる』という発想があるかどうかや」と語っており、発想の転換ひとつでこんなにも変わるものなのか、とその言葉が心に響きました。そして、取材にも丁寧に応じてくださり、ありがとうございました。取材は作品を完成させるためだけでなく、相手と信頼関係を築けると同時にたくさんのいい言葉に出会い、知ることができて良かったです。聞き書きは地元のことを知るだけでなく、多くの言葉にも出会えることができる活動だと思います。

（1年　前田 恵李：写真左）

伝えたい木の文化、残したい美しい森

福田 明彦（大分県杵築市）
聞き手：本田 聖奈・森 愛実（大分県立国東高等学校 園芸ビジネス科）

大田の里で生まれ

名前は、福田明彦と言うんよ。生年月日は昭和 48 年の５月１日で、44 歳になる。国東半島のちょうど真ん中辺の杵築市大田永松で山々に囲まれ生まれ育ち、今は宇佐の海育ちの妻と小学校１年の一人息子の３人家族で同じ場所で暮らしているんよ。生まれた時は、西国東郡大田村じゃったなあ。海とは全く縁のない所で育ったんよ。シイタケが有名じゃなあ。子どもの頃、遊ぶ所ち言うたら、山しかなかったなあ。木に登ったり、山に隠れ家を造ったり、ツルにぶら下がっち遊びょったなあ。今の子どもは全くせんごとなっちしもうた。

自分の名前の由来は、「明るく育ってもらいたい」と両親が願ってつけてくれたと昔聞いたことがある。大田の山に見守られ、山で遊んだお陰で、願い通りに明るく生きちょるなあ。便利は悪いけど、ここが一番落ち着くなあ。我が家は、先祖代々大田のこの場所で山仕事に携わりながら、子どもたちを育ててきたんじゃなあ。

大田を離れて

私は田原小学校、大田中学校、そして中津工業高校を卒業したけど、今は全部のうなってしもうた。高校だけは今も中津東高校として残っちょるが、小・中学校は廃校になっちしもうた。自分の子どもも私を育ててくれた学校には通えん。寂しいなあ。高校では、野球に明け暮れ、中津で下宿生活をしよった。それでも３年で野球が終わっちからは、大田の家に戻り、片道40㎞はあると思うけど通学したんよ。その後は、だいたい農林業しかない大田に戻ってくるつもりもあっち、大学は宮崎県の南九州大学園芸学部で農業関係の勉強をしたんよ。そんなことで、今の自分がいるわけじゃなあ。

福田林業

私の父は、福田林業ち言う会社を経営しよって、小さい頃から父の仕事場についち行きよったんよ。小学生の時には、重機やチェンソーを使いこなせるようになっちょって、将来は林業の仕事しかないなあ、親の跡を継ごうと考えちょったんじゃなあ。それで、平成

8 年に大学卒業後、すぐに地元の森林組合に就職し、10 年間林業の修業をしたんよ。平成 18 年に有限会社福田林業に入社し、平成 21 年からは会社の代表取締役をしよるんよ。従業員は、皆で 6 人おり、ほとんど大田に住んじょるんよ。年齢は 35 歳から 70 歳前までで、若い人が少ないなあ。

うちの会社は、山仕事なら何でもするんよ。林業っち言うたら大きな木を切り倒す伐採の仕事のイメージかな。実際それが主じゃけど、山を守ることも欠かさずしよるんよ。木を伐採しち、そのまま放ったらかしにしちょくとどうなると思うかえ。伐採した場所に、良い木が生えんで、山が崩れるだけじゃないんで、その下の所、さらに行き着くところ海までも荒れてしまうんよ。そんため、伐採した後に幼木を植える植林、つまり山を育てる仕事も請け負っているんよ。近頃は、ここら辺は鹿が増えちしもうち、芽を食い荒らし、幹の皮を剥いだりして大変になっちしもうた。鹿の対策が大変になったなあ。鹿から苗を守るためにテープを張ったり、網で囲ったりすることもせんとならんごとなったんよ。

何十年も先、更には次の世代の森の姿をイメージしながら、毎年手入れをくりかえし、森を育てちょるんよ。

最初の取材（事務所の前で記念撮影）

山の仕事

●苗木づくり

苗は山に直接種を蒔いて育てるんじゃないんよ。挿し木ち言うて品種の確かな木の枝を、土に挿して増やすんよ。それを、苗を育てる「苗場」ち言う畑で 3 年くらい育て苗木づくりをするんよ。うちの会社では手が回らんから、そこまでせんけどな。

●地ごしらえ

苗木を植林する前に、雑草や灌木ち言うじゃけど丈の低い木を取り除く「地ごしらえ」ち言う整地作業を冬の間にするんよ。傾斜が急な所は、本当にそりゃもう大変な作業じゃが、森を作るために必要な最初の大切な仕事じゃな。

●植林

苗木を山に植え付ける作業を「植林」ち言うんよ。時期は、あんまり暑くない春や秋にするんよ。杉苗は 1 町歩（約 3000 坪・約 1ha）に昔は 3,000 本植えよった、最近は 2,000 本とかが普通になったなあ。ようけ植えて苗木どうし競争をさせた方が、早く真っ直ぐに伸びるんよ。

●下草刈り

苗木が草木より大きくなるまでの 5 ～ 10 年は、下草を刈って、苗木の成長を助けんとわりんよ。木がある程度大きくなるまでが大変なんよ。小さな苗木が草に負けんように草を刈る下草刈りは、夏の初めの蒸し暑い時期にせんとならん。今年はやたらと蜂が多くて、従業員が何人も蜂に刺されてしもうた。木がある程度大きくなると地面に日が当たらんようになり、草が生えんようになるんよ。それまでは、毎年下草刈りをせんとならんのよ。

●つる刈り・除伐

下草刈りをせんで良うなっても、ツルが幹に巻き付いたり覆いかぶさったりするんで取り除かんと、木の成長が悪くなるんよ。木の成長を邪魔するような灌木を切ったり、成長が悪くて大きくなりきれんような木も、チェンソーやナタなどで切るんよ。これも暑い時にせんとならんのよ。

愛用のチェンソーとナタ

●枝打ち

植林してから 10 年以上経つと、周りの枝と重なり合い森の中に光が入らんごとなって、害虫も発生しやすくなるんよ。そんため､枝を付け根から切り取る｢枝打ち」ち言う作業をせんとわりんよ。作業は、樹木の生長が止まる秋から冬の間にするんよ。しっかりと枝打ちをすることで、節の少ない立派で良い木材となるんよ。

●間伐

植林してから 20 年、30 年と年月の経過とともに木々は生長して込み合いだすんよ。そんままにしておくと、モヤシんごと弱々しい木になっちしもうち、つまらんごとなるんよ。そこで、チェンソーを使っち、木を間引く作業をして、残した木が健全にすくすくと育つように手入れをせんとわりんじゃなあ。間伐がしっかりできると、地面に日の光が差し込み、地中の根もしっかりと張り巡るようになり、自然災害などにも強い森になるんよ。

●主伐

指導してもらっての重機での主伐作業

植林後 50 年前後で柱や板の材料をとれるだけの太さに生長し、やっと収穫の時期になるんじゃなあ。そして、最終的に行う伐採を「主伐」ち言うんよ。近頃は主伐の仕事を 1 年中するようになったけど、冬が最盛期じゃなあ｡昔は冬しかしよらんかったけどなあ。なしかち言うと、冬の時期は木が水を吸いあげなくなる休眠期に入り虫が入りにくいからかな。6 ～ 8 月の夏は虫が入り易いんじゃ。｢木六竹八」ち言葉があるんじゃな。木は陰暦の 6 月、竹は 8 月には伐採するなち言うことじゃなあ。6 月頃の木は、外側が生長しきれてないんで、割れたり乾燥しにくく腐れやすく虫も入りやすいんじゃな。竹の場合 8 月に竹山の竹を多量に切ると林全体が枯れて、大雨で山が崩れちしもう心配があり、注意が必要じゃなあ。

重機が入る所は重機を使って楽に伐採ができるけど、入らん所はチェンソーを使って、危なくないように後の作業のことをも考えながら、一本一本慎重に切り倒していくんよ。

●玉切り

伐倒した木を、利用しやすい長さ 3 ～ 4 mに重機やチェンソーで切ることを「玉切り」ち言うんよ。木のどの場所を利用するかが職人の技じゃなあ。重機が入っていける所じゃったら、伐倒・玉切り・積み込みまで、いっぺんにできち便利になったんよ。重機にはエアコンやラジオも付いちょし音楽も聞ける。暑くも寒くもないし、おまけに一人で作業ができるようになってきたんよ。

重機で玉切り作業

●搬出・運搬

最後に玉切りした丸太は、重機とキャリーなどを使って林道まで運び出すと、うちの仕事は終わりじゃなあ。

重機とキャリーで搬出作業

森の大切さ

今年の九州北部豪雨では、日田の山々から流木が流れ出しち、大災害が起きてしもうたなあ。津久見も佐伯も……。ここら辺の森は、平成３年の台風 19 号の時かなあ、大きな被害を受けてだいぶ倒れてしまったんよ。物凄かったなあ。

森は、災害から村々を守っていることを知っちょるかなあ。雨が降ったら、森が水を一時(いっとき)貯めるんよなあ。木や草がないところは雨水と一緒に土も流れていくんよ。森の中で保水されんまま、直接地肌に沿って一気に流れるから洪水になるんじゃなあ。手入れができていない森は、根も張らず下草も生えんから、保水力もなくなるんよ。九州北部豪雨で木がいっぱい流されちょったんを見た時は、残念じゃったなあ。山仕事はすればするほど、森が綺麗になって木も太り、沢山の雨水を貯めることができるようになるんよ。森は自然のダムち言われちょるんよ。

手入れの行き届いた森

山仕事の遣り甲斐を感じて

山仕事をすることで森に光が入り、綺麗な山になる。そして、施主さんから「ありがとうございました。お陰様で山が元気になりました」ち言われることが一番の遣り甲斐じゃなあ。

大変なことは、自然相手なので天候に左右されることかなあ。雨が続いて仕事ができないと大変じゃなあ。あと大怪我をしたりすることも心配じゃなあ。木は１本１本違うからなあ。また、同じ場所もないので、毎日変化があり、遣り甲斐があるなあ。大変なこともあるけど、やっぱり面白れえなあ。

山の神に守られて

この辺では１月 16 日は山の神の日ち言うんよ。一年で一番大切な日じゃなあ。その日は、山には入らんし、仕事もせんのよ。村の氏神様を皆でお参りして神官さんを招いて祝詞をあげ、山で仕事をさせていただくことに感謝と安全祈願をする日で、仕事をしては悪いんじゃ。山の神様ち言うのは女性みたいで、女性が来ると嫉妬して怪我するち言われちょる。そんため、女性は山に入れんち言いよったけどなあ。この村は昔から山のお陰で生活ができちょったから、地域の人はみんな山と氏神様に感謝しちょるんよ。うちの地区のお宮の名前は、そのまま「山神社(さんじんじゃ)」ち言うんよ。そのお宮のクスノキの御神木は樹齢 800 年以上で地域のシンボルとして地域を見守ってくれていたんじゃが、枝が落下し神社神殿の被害が出てきたので、残念じゃけど切ってしもうたんよ。幹の直径は 2.3 ｍもあったんよ。

また、新しい山に入って木を切るときは、今でも安全を山の神に祈願して、お酒と塩をまいてから入るんよ。それは、昔も今も変わらんなあ。

切り倒された御神木

林業後継者

農業と同じように林業も後継者問題が大きな問題じゃなあ。地域には小学校も中学校もなくなり、年寄りしかおらん、後継者どころの問題じゃねえなあ。限界集落になっちしもうかもしれん。今何とかせんといかんなあ。ここは、なんもないけど都会にはない良い所がいっぱいあるんじゃけどなあ。林業も昔みたいに、重労働じゃなくなっているし、重機を使えば快適に仕事ができることを皆に知ってもらわんとわりいなあ。

特に子どもたちには、林業や身近にある森の魅力を教えてえなあ。自分たちが山に育てちもらったごと、今の子どもたちにもいっぱい山遊びをしち、山の楽しさや大切さを体感しちもらいたいなあ。

森のおと

森や木の楽しさ大切さを体感しちもらい、森や林業に興味関心をもってもらいたいち言う思いから、毎年11月の日曜日に「森のおと」ち言うイベントを、自分が地元の横岳自然公園で始めたんよ。沢山の人に加勢しちもらいながら、今年で４年目になるなあ。子ども向けのイベントは、丸太切り競争や丸太ころがし競争、一番人気はツリーイングクライム・ロープを使った木登りじゃなあ。他にもネイチャーゲームち言う山の中の自然体験やキャンプのやり方とかも講義しよるんよ。大人向けにも、自然の中でコンサートをしち、楽しんでもらっちょるんよ。小動物とふれあうコーナーもあるんよ。

地元の子どもたちには、小さい頃、横岳で木に登ったことや丸太で遊んだことが面白かったなあち言う思い出を作っちやりてえなあ。地元がすごく楽しかったなあちいう経験があったら、高校や大学に行って地元を離れることになっても、やっぱり大田が良いちならんかなあ。そして、一人でも多くの子どもたちが田舎に帰っちきち、大田の山々に見守れながら暮らしてくれたら良いなあ。

〔取材日：2017年9月21日・11月2日・11月19日〕

「森のおと」丸太ころがしイベント開始前

ツリーイングクライムの様子

Profile

福田 明彦【ふくだ あきひこ】

生年月日：昭和48年5月1日
年　　齢：44歳
職　　業：有限会社福田林業 代表取締役

略歴

▶大学卒業後地元の森林組合に就職し、平成18年に有限会社福田林業に入社。平成21年からは代表取締役を務めている。会社経営するかたわら「森林の大切さや自然の楽しさを広める活動」を積極的に行っている。代表的なものとして、森を親しんでもらうイベント「森のおと」を毎年開催。地元の小学校、こども園で「森林教室」を年3回開催している。森林セラピーガイド・ネイチャーゲーム指導員の資格を持ち、大分県林研連合会副会長、木作会会長などを務めている。

【取材を終えての感想】

今回私は、聞き書きという貴重な体験をさせていただきました。私たちは、林業を営んでいる福田明彦さんの所に取材させてもらいました。私は、福田さんの所に取材に行くまで、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、福田さんは、私たちを笑顔で迎えてくれて、私の緊張は和らぎました。私たちが、質問している時も笑顔で質問に答えてくださいました。私は、福田さんに林業という仕事を詳しく聞くまで、林業のことは全然知りませんでした。福田さんに仕事内容を聞くと、仕事は伐採だけでなく、植林もしているとのこと。保育園や小学校に行き、子どもたちに林業とは何かということを知ってもらう活動も行っていました。森や林業に親しんでもらうためのイベントを開いたり、林業を次の世代に継いでもらうための活動を行っていることなど、次の世代に林業をしっかりと繋ぐ取り組みをしていると感心させられました。他にも、林業後継者が少ないことや私のように林業のことを詳しく知らない人たちがいることが現状だということも教えてもらいました。そのことを聞き私は、私たちが関わったこの冊子を1人でも多くの人に読んでもらい林業のこと、福田さんが行っている活動のことを知ってもらいたいと思いました。

最後に、今回聞き書きという貴重な体験をさせていただきありがとうございました。福田さんもお忙しい中、お話を聞かせていただきありがとうございました。

（2年　本田 聖奈：写真中央）

私は、今回初めて聞き書きに参加させていただきました。最初、声をかけられた時ちゃんと取材ができるか不安でした。1回目の取材の時、事務所の方で取材させていただきました。取材させていただいた福田明彦さんは慣れない私達に優しく答えてくださいました。2回目の取材では、実際に山に入らせていただき大きな神木の木を見せてくれました。根がすごく長かったです。貴重な木だったので見れてよかったです。取材する前は、林業のことは全くわかりませんでしたが取材をしたことで知らなかったことを知れてよかったです。

聞き書きの中で一番苦労した作業は、録音したのを書きおこす作業です。何回も聞いたり消したりするのが大変でした。このほかにも大変なことはたくさんありましたが、2人で協力して頑張ることができたのでよかったです。聞き書きを通して福田さんに出会えてよかったです。

（2年　森 愛実：写真右）

土手つき唄から聞こえてきたもの
～人間の生きる力～

一川 良寧（大分県国東市国見町）
聞き手：尾崎 優作・成重 光・浜田 こころ（大分県立国東高等学校双国校 総合ビジネス科）

一川良寧名人

私の名前は一川良寧（いちかわよしやす）です。年齢は 75 歳です。「櫛来土手つき唄・千本つき踊り保存会」の会長をしています。現在の仕事は、花、野菜などの苗物の生産・販売をしています。元は、米作りなどが主だったけど、昭和 30 年代から「みかんブーム」があったんです。それで、みかんの品種改良などを一生懸命やって、みかんを育てていた時期がありました。

やけども、昭和 30 年代前半に全国で 50 ～ 60 万トンの生産量があって、昭和 40 年代から 50 年代には全国生産 300 万トンから 500 万トンへと、どんどん生産量が増えていった。もうね、みかんを植えたがお金にならないという状況だった。農協経由で販売していたんやけど、みかんが取れすぎて値段が下がり、一度、価格が崩落すると出荷価格がどんどん下がって収入が少なくなってしまう。そこからは産地直送でもやっていった。

いろいろやったけど、それでもみかんは商売にならなかったんですよ。それでみかんの価格の急落を機に、トマトの苗作りを始めました。

今の季節（インタビュー時は 9 月中旬）は花の苗をハウス栽培した後、事務所側の露地に移して生産する。これから冬の花のパンジー、ビオラなどのシーズンやからそれらを販売するね。奥さんと二人で仲良くやっています。従業員 8 人、繁盛期は 13 人でみんな頑張ってくれているしね。

名人の育てる苗

名人の歴史

私はね、今は国見町櫛来に住んでいるけども、昭和 17 年、戦争中に中国で生まれたんです。満州国ハル

ピン市。3 歳までいたから、うっすらと覚えているけど、治安は割と良くて、敗戦国なのにみんな日本人に良くしてくれたね。それから昭和 21 年に日本に戻ってきた。

数年前にね、旅行で行ってきたんですよ、ハルピンに。当時の風景とあまり変わってなくて、懐かしかったなあ。小さい頃は終戦後やから、とにかく物が不足していたわな。特に食べ物が豊富じゃなかった。なんでも物不足。でも田舎は都会よりなんぼかましやったね。

それでも戦後、小学校下級生くらいの時は配給制やった。靴や帽子などが配給されていたんですよ。大変な時代で親は苦労していたけど、私自身は、あまり苦労したような感じはしなかったね。それから国東高校（現在の国東高校双国校）の定時制に通いました。

インタビューに答えてくれる名人

農家を継ぐ

卒業後は家が農家だったから、農家を継ぎました。長男でしたしね。小さい頃から、自分は農家を継ぐんだって思ってたね。皆さんみたいに進路で迷うことはなかったなあ。

25 歳の時、青年団と近所の農家の方と集団創作劇をしたことがあって。県の大会で 1 位になったんですよ。それから東京で全国大会まで行った。どんな話かというと、田舎を出ていく青年、兼業農家の青年、そして専業農家の青年の 3 人の想いを題材に作った話。現代のようにパソコンがないから、原稿用紙に手書きしたね。この頃は、櫛来地区には 20 ～ 25 歳の若者が 30 人くらいはいたから、みんなで一緒にできたのは楽しかった。

みかんを一生懸命植えても、お金にならない。そのうえ鹿やらの害獣に新芽を食べられてしまって、被害が大きかった。大変なことも苦しいこともいっぱいあった。でも、その苦しさに負けないように自分にゲキを飛ばして頑張れたね。

土手つき唄のはじまり

この辺は瀬戸内海の気候で雨が少ない。大きな川もなくて、小さな小川だけでは水が足りない。米作るには水がいるわな。それでこの辺は、ため池がたくさん作られているわけやな。

それでため池を作るのに村人が総出で集まり、土を掘り、掘り起こした土砂をモッコで運び、固めるために水を打ち、足と杵で踏んでたたいて固めて、土手にする。4 列編成で隊列を組んで、土手の端から端まで、力いっぱい打ちつける。斜面は杵を横にもって大きく回して打ち下ろし、平面は飛び跳ねながら足と杵で打ちつける。それをひたすら繰り返して、ため池を造っていく。機械も重機もない、全部人力で。何十年もかかってやっとできるわけ。

その時、人の頭やら足やら打たんように息を合わせな悪い。みんなで息を合わせて土を打って固めていくのに調子をとって歌を歌ったんやな。

それから土手つきは重労働。人力のみの大変なきつい作業だから、歌でも歌って少しでも楽しんで作業できるように歌ったやろうし、きつい 1 日の終わりに土手つき唄を歌うことで、楽しく終われたんやろう。たぶん村の陽気な若者が、調子合わせに太鼓でもたたいて、歌ったんやろう。その土手つき唄に合わせて土手打ちの様子を踊るのが千本つき踊りなんです。

ため池の土手

土手つき唄との出会い

おそらく、江戸時代末期からため池はつくられたようです。国東地区だけでため池が 281 個もあるんです。昭和 20 年代に上櫛来の人達が最後の土手を造った。昭和 24 ～ 25 年に櫛来のため池の土手の改修を手作業でしたのが最後かなあ。昭和 30 年後半は機械中心。高度成長期になって、重機やらでもできるようになったし､改修工事もできるようになった。それで、この地区の人達が、昭和 34 年に土手つき唄・千本つき踊りを保存する会を作ったんやなぁ。その会を結成した人たちがどんどん年を取っていって高齢化してしまって、私がまとめ役として引き継いだということです。25 年位前、平成 4 年くらいから関わって、保存会の会長をしてます。

千本つき踊り

土手つき唄に込められた思い

私は実際にね、土手つきをしたことはないです。でも指導してくれた人たちは実際土手つきをした人もいましたよ。話に聞く土手つきは本当に重労働。今の踊りに使う道具は軽いけども、実際の道具はもっと大きくて重いわな。そりゃ大変な重労働やな。そんな時に歌われた歌が、土手つき唄。できた土手はとても丈夫で崩れることはあまりなかった。人間の力はすごいですよ。

ため池を作るのは毎日毎日同じ作業で大変だしきつい。男も女も村人総出でやる。そんなつらい作業を楽しくするために土手つき唄が生まれ、千本つき踊りを踊った。その昔の人の苦労やきつい労働のおかげで今現在があることを覚えておくのが大事。ずっと覚えていて伝えていくことで、昔とつながっていける。だけど保存しなければその代で途切れてしまう。一度途切れたものを、もう一度復活させるのは継ぐ以上に難しいわな。私が保存会の会長をしているのは、ここで途切れさせたくないという強い気持ちから。それが土手つき唄と千本つき踊りを保存していく理由です。

須川ため池改修記念碑

実際の踊る様子

つなぐ

年に数回、別府や大分方面のイベントに呼ばれて頼まれて披露しています。敬老会や農業祭でもやりましたし、別府ビーコンプラザの全国ため池フォーラムとか、多くの場所で土手つき唄・千本つき踊りの発表をしましたよ。土手つき唄と千本つき踊りを頼まれた時、いい評価を受けた時、うれしいですね。発表の時なんかに、観客の方から拍手されたり、喜ばれたりするのが本当にうれしいですよ。たくさんの人に土手つき唄と千本つき踊りを知ってもらえることもうれしいですよ。

後ね、地元の国見中学校の 1 年生の生徒が、土手

つき唄と千本つき踊りを習いに来て、文化祭で発表していますよ。今年で２年目かな。若い世代が興味を持って、土手つき唄と千本つき踊りを続けていきたいという活動がうれしいね。土手つき唄は踊りも唄も単純。歌詞も盆踊りの口説きのような感じだけど、動きがかなりハードできつい。中学生はよく頑張ってる。

それから青年団の OB が、「引き継ぎたいから、教えちょくれ」と言ってくれた思いもうれしかったですね。

保存会の活動で助成を受けて、衣装や太鼓など道具を買う資金を賄うことができたんです。保存会では、20 代から 70 代までの 20 数名が現在継承事業に取り組んでいます。高校生の参加も、ぜひともお願いしたいですね。

法被と杵

若い世代にメッセージ

「とにかく一緒に踊ってほしいですね。一緒につないでいってほしいです。」

［取材日:2017年9月19日･11月1日･11月7日･1月16日］

Profile

笑顔の名人

一川 良寧【いちかわ よしやす】

生年月日：昭和17年1月22日
年　　齢：75歳
職　　業：農業（花苗）

略歴

▶戦争中に中国ハルピンで生まれ、3歳で帰国。国東高等学校定時制（現在の双国校）を卒業後農業に就く。みかん農家として苦労し、現在は国見町で地域に根差した苗ものの生産販売をしている。25年位前より「櫛来土手つき唄・千本つき踊り保存会」の活動に携わり、現在は会長を務め、文化を次世代へ継承する保存会の活動に尽力している。

【取材を終えての感想】

私は、今回の世界農業遺産の聞き書きに立候補したとき、初めてということもあり、最初は何をすればいいか分からず、とても不安でした。ですが、研修を受けて大体のやり方が分かった後からは少しずつうまくできるようになりました。

初めて取材に行った時は緊張しましたが、名人のおかげで和やかなムードのなか緊張がほぐれ、スムーズに進行することができました。

原稿の書き起こしも放課後の時間を使い、期限までに終了させることができました。

今回、自分は先生のすすめで立候補しましたが、貴重な体験ができて良かったと思います。この体験で培ったことをこれからの活動や学校行事などにも活かしたいと思います。

（１年　尾崎 優作:写真右）

……

私は、今回この世界農業遺産の聞き書きの活動を行って、一川さんの活動の話を聞き、一川さんが櫛来土手つき唄・千本つき唄踊り保存会に参加していて、実際に一川さんも踊っていると聞いて驚きました。

まず取材に行ってビデオを見せてもらい、迫力ある踊りだなあと思いました。はじめは、一川さんは怖い人なのかなと思っていましたが、いざ会ってみると話をしているうちにやさしい人だとわかりました。

私は、踊りを知りませんでしたが、映像を見て、とても力強い素晴らしい踊りということに気付かされました。私も機会があれば踊りを実際に見て、踊ってみたいと思いました。

私は、盆踊りを見たことはありますが、櫛来土手つき唄・千本つき唄踊りもまた違う良さがありました。

今回のこの経験を通してたくさんのことを学びました。そしてもっと多くの人に一川さんの活動が幅広く広まってほしいと思います。

（１年　成重 光:写真左）

……

私は、今回の世界農業遺産の聞き書きに先生にすすめられて参加しました。今回初めて聞き書きを体験したというのもあり、何をすればよいか全く分かりませんでした。

取材に行った時、名人の一川さんはとても親切で優しく教えてくれたので分かりやすかったです。

私は、土手つき唄や千本つき踊りのことについてあまり知らなかったのですが、一川さんが分かりやすく丁寧に説明してくれたので非常に分かりやすかったです。

国見中学校の生徒が文化祭で土手つき唄を披露するなど、一川さんをはじめ地域の方が様々な場所で披露していることもあり、多くの人が土手つき唄を認識してきたと思います。

私は今回、聞き書きをやめたい、やりたくないと思った時も何回かありましたが、やめなかったことでここまでやり遂げられたんだという自信にすることができました。この達成感を忘れずに今後の活動にも活かしていきたいと思います。

（１年　浜田 こころ:写真右から２番目）

インタビュー終わりに名人と

牧場を教育現場に
～若手酪農家の取り組み～

田畑 修一（大分県杵築市山香町）
聞き手：船木 たま美・真砂 海翔・高橋 知花（大分県立杵築高等学校 普通科）

牛とともに生きる

私は田畑修一です。昭和 56 年 1 月 13 日生まれの 36 歳です。杵築市山香町に生まれた時からずっと住んでるよ。小中高と山香の学校。東山香小学校、山香中学校、山香農業高校で、大学は茨城の筑波大学。実家は牧場の敷地内にあるよ。今はじいちゃんとばあちゃんと、うちら夫婦とうちの子供が 4 人の 8 人家族で住んでる。お父さんは畑で働きよん、お母さんも。子供の時から牛とは触れ合いっちゅうか、遊び場もこやった。酪農始めたのは親父の代で、それを俺が継いだっちいう感じやな。保育園の時からずっと「夢は牛飼いです」っち言いよったみたいやね。そう思ったのは牛が好きっちゅうのもあるんやけど、やっぱ親の姿がかっこよかったのね。それに憧れた、この酪農に限らず農業っちゅうのは身近に親の仕事を見れるから。うちの場合は兄弟とも継いだ。坂をちょっと登った上にでかい牛舎があるんだけど、弟はそこで和牛の経営をしよって。親父の牛舎は俺が継いで、弟は新規で始めたっちいう、いろいろ協力し合いながら。

名人の田畑修一さん

地域一丸となって

ここの地域はね、昭和 28 ～ 30 年頃、長野の諏訪湖近辺から開拓で入った特殊な地域でね。戦後の対策で「次男三男坊対策」っち年寄りはいうんやけど、ようは「長男は実家を継いで、次男三男坊はまた新しい土地で頑張ってください」っち対策で、長野にいた俺のじいちゃんが「いいところがあるよ」っちいわれて来たのがこの山の中っていう。でも来たからには「ここを開拓せにゃならん」ってことで開拓始めて。昔やけん機械もなくて、のこぎりとくわとかで開拓し始め

た。今は開けちょんけどさ、本当に山やったけん、ここ。それをじいちゃんばあちゃんたちが木を切ったりして、開拓して、まず野菜を作る、自分たちが食うために。それで余ったものを山のふもとまで運んで、市場とかで売って。で、昭和 37 年頃、ここら辺は養蚕地帯になって、みんなで養蚕をはじめて。で、昭和 50 年頃、養蚕が衰退したときに何作ろうか、何しようかってなって。野菜はまず作れないと。まだ養蚕してる人がいて農薬が使えなかった。桑の木に農薬がかかると蚕さん死んじゃうから。だから他にできるものは何かっちいったら、畜産やろうと。それでみんな牛飼い始めて。うちは昭和 43 年に、1 頭から飼い始めたね。酪農を始めたのは昭和 55 年。でもこんなに規模がでかくなったのは、ここ５、６年とかそこらへんやね。最初はお金が無くて苦労したなあ。水もなくて大きくできなかったし。夏になるとここ水が出らんくなるんよ。山の水引っ張ってきよったから。それをボーリング掘って、地下からポンプで水をくみ上げて、それからみんな牧場がでかくなった。まあ水が出るかはーか八かのところがあったんよ。260m くらい掘ったんかな、ここは。でも出なきゃ出るまで掘っただろうね。

ここの地域はね、この牧場のちょっと下にも隣の牧場があるけど、酪農地帯というか酪農家が多くて。しかも若い人たちが多いのね。山香に今、酪農家が９軒あって。で、みんな若い人がおるし。今、隣の牧場の若いのは俺より年下やし。まあ幼馴染やわな。隣やけんさ。杵築と日出と国東市で酪農家が今 27 軒ある。もうほんと若い人が多くて。でその人たちで「勉強会」っていうのを作っちょって、いろんな先生呼んだりとか、勉強したりとかして。で、お互いにレベル上げていきましょうみたいな。だから、結構そういう人たちが近くにいたから、自分のわからんことを相談したりとか、逆に向こうのわからんこと教えたりとか。そういう情報交換とかやりやすかった。思いの交換っちいうのは常にあるけん、いいかなと思う。やりやすいっちゃ、やりやすいかな、この地域は。1 人でやるのと全然違うもん。なんか困ったら「ちょっと来てー」とか。「機械貸してー」とか。あと、ぽっとしたときに集まったりとかして話したりとか。

名人の仕事

朝 6 時 15 分頃から仕事を始めます。まずは乳搾りとえさやり、子牛の授乳から。3 つ合わせて、朝夕それぞれ 3 時間かかる。牧場によっては 4 時間かかる人もおるし、2 時間で済む人もおるけどね。でも 12 時間空けて乳搾りをするのは、みんな一緒。だから朝と夕方の乳搾りは欠かせない。乳を搾らなかったら牛が病気になってしまうけんね。ちなみにうちの牧場は１日に約１トンの牛乳を出荷してます。牛乳専用のタンクローリーが朝 4 時に回収に来る。今は 2 日に 1 回しか来ないから、回収に来ない日の牛乳は、タンクの中に保存してあります。乳搾りには牛舎から少し離れたところにある機械を使います。決まった時間になれば、牛たちは自分で乳搾り専用の建物の中に入っていく。牛の股の間に、乳絞りが始まる 30 分前くらいに自動で殺菌した機械をつけて乳を搾ります。乳搾りと同時進行で、えさやりもしています。牧草だけじゃなくて、カロリーやたんぱく質量を調節した大豆などもあげています。TMR *っていう色々な作物が混ざったもの、エネルギーの高いもの、牧草の順で食べさせてる。基本的には消化しにくいもの、消化が早いもの、いっぱい食べるもの、という順番だからね。

日中は、９月半ばから 11 月末くらいまでは牧草の収穫をします。

牛にえさを与える名人

その時期以外は、牛舎の掃除と、牛のふんを発酵させて作ったたい肥の管理をしています。冬の日中は、吹雪いていれば牛舎をカーテンで囲う作業をしています。囲えば、牛の体温で牛舎の中が暖かくなるんよ。こんなふうに割とやることが多いけど、月に 2 回はヘルパーさん*を雇ってお休みをもらってる。ヘルパーさんは山香、杵築、別府に一人ずつおっちょるな。この地区はヘルパーの制度がしっかりしちょんから。普通の仕事と違って、ヘルパーさんを呼んでいな

いときでも、日中なら時間を作ろうと思えば作れるんですよ。朝夕に乳搾りとえさやりがあるから遠出はできんけど。

＊TMR（total mixed rations：混合飼料）…
乳牛の養分要求量に合うように粗飼料、濃厚飼料、ミネラル、ビタミンなどをすべて混合し、自動給餌させる方式。乳量が増える、乳脂肪率が高くなる、飼料代を抑えられる、省力的、消化障害が少ないなどの長所がある。
（weblio 辞書 https://www.weblio.jp/content/TMR）

＊ヘルパーさん…
酪農家が休みをとる際に、酪農家に代わって搾乳や飼料給与などの作業に従事する人。酪農ヘルパー利用組合に所属し、酪農家の要請に応じて派遣される。

若手酪農家の苦労

まあ今ではそんな余裕があるけど、若いときは本当に苦労したね。就農した当時は、俺何してきたんだろうって思ったもんね。作業の流れは全部分かるんやけど、牛についての生理学的、栄養学的なことが全然分からなくて。こいつらはどうやって草を牛乳に変えてるのかとか。今までの勉強は上っ面だけやったなっち感じた。だから色々な講習会や勉強会に行ったり、獣医さんに話を聞いたりして。牛の人工授精の免許を取るために 1 ヶ月間久住に通ったりもしたね。この仕事が本当に楽しいと思い始めたのは就農して 6、7 年経ってからやな。相手が生き物だから自分の思ったようにいかないし、乳量とか繁殖成績とかっていう結果を出すのが難しい。酪農部門に約 70 頭、肉牛部門に約 50 頭、合わせて約 120 頭の牛それぞれに性格があるからね。乳搾りのときにすぐ機械の中に入る牛もおれば、他の牛が入り終わるまで寝てる牛もおるし。強い牛、弱い牛みたいに牛同士の優劣もある。その頂点に俺がいるわけだけど。そうじゃないとだめ。ペットと違って経済動物やから、太ったりとか乳量が減ったりとか、一生懸命さがなくなると困るんよ。だから懐かれるんじゃなくて、命を預かる形で飼ってる。俺が一番上って牛たちは思ってるから、俺が牛舎に入るのと嫁さんが入るのとでは牛の対応が違うよ。でも人慣れはしてるかな。牛はすごく敏感で臆病だから、普通は知らない人が来たらみんな一斉に立ち上がったり、鳴きだしたりするんよ。でもうちの牛たちは「また誰か来てるわ」くらいにしか思ってない。農業体験者の受け入れで色々な人が来るからかな。面白いよ。

人慣れして高校生にも動じない牛

田畑家流牛の育て方

うちにいる牛の体重は大体 650 キロから 700 キロ。酪農部門については、品種はみんなホルスタイン。乳量が多いから、酪農するのにはもってこいなんよ。ただ暑さに弱いから、牛舎の屋根の上に水が出る装置を作って、中をいつも冷やしてる。大きい牛舎の隣にある、そういう装置がついたもう 1 つの牛舎は、大工さんなしで自分達で建てたのよ。

牛舎についてはね、うちは牛を牛舎の中で放し飼いにしてる。うちは昔からこういう形やな。牛たちが自分の寝たいところに寝れてストレスがかからないから、やっぱり長生きするね。牛の寿命は、うちでは平均で 5 歳から 6 歳。メスについては、6 歳とかになって牛乳が出なくなると、乳牛としての経済価値がなくなるので肉にしてしまう。オスについては、生まれたときから肉になるって決まってる。早くて生後 2 ヶ月で競りにかけて、肥育農家*さんに渡す。商売だし経済的な観点からしか牛を見らんから、そのときはもう、高く売れればいいなっち思うだけ。肥育農家さんに引き渡した後は一切関与してないしな。まあそんな感じで高く売りたいんやけど、品評会って言って、見た目の基準に沿った形で牛の順位を決めるものがあって、うちの肉牛はその全国大会に出せるまでいってない。狭き門やな。乳牛は全国に出たけど。

牛の病気については、下痢が一番多いな。人間の子供と一緒で、咳をしたり肺炎になったりもする。インフルエンザにもかかるし。牛は腸内に O157 を保菌できるから、ふんに触ったりすると人間も危ない。手を必ず洗ってくださいね。それから口蹄疫*は法定伝染病っていうのに定められちょって、かかると著しく生産活動を脅かす。たとえば、口の中や蹄の間の皮膚に水疱ができて、食べるえさの量も乳量も少なくなって痩せ細っていくとか。そういう場合は殺さなくちゃ

いけない。対策としては消毒だよね。機械の消毒は当たり前だけど、農業体験者が来たときは、手や足の消毒を徹底してます。牛にはむかつくこともあるけど、生まれたときから多分死ぬまで一緒にいる動物やから、可愛いよね。

＊肥育農家…
繁殖農家から子牛を買ってきて、肉牛として売るために育てる農家。

＊口蹄疫…
ウイルスが原因で起こる牛、豚、羊、山羊などの急性の伝染病。伝染力が強く畜産業に与える影響が大きいことから、関係者が大きな関心を持たなければならない家畜伝染病のひとつ。
（weblio 辞書 https://www.weblio.jp/content/ 口蹄疫）

たばた牧場内の牛

今に繋がるキャンパスライフ

筑波大学っちいう所は、農家になるための大学じゃなくて、先生になったり、研究者になったり、公務員になったりするための大学やけん、もともとは東京教育大学っちいって、先生になるための大学の流れやから、農家になる人がほとんどおらんのよ。でもそういう人たちが農業知らんで、農業の先生になったりとかするのは嫌やなっち思って、なんかできることはないかなっちことで、農業系のサークル「のうりんむら」を立ち上げて、サークルの仲間でうちの牧場に来てガッツリ働くことになった。元々、学園祭だけに活動する集団みたいなのがあって、それをサークル化したみたいな感じかな。名前だけ引き継いだっち感じ。始めた時は、20 人くらいいたかな。自分が卒業する頃には 40、50 人くらいおったと思うよ。将来農業に携わらない人にとって良い経験になったんやねえかなっち思う。リピーターも多かったし。サークルは俺にとっては、搾乳体験とか人の受け入れとかのきっかけになり、コミュニケーション能力なども学べたよ。

牧場を教育現場に

この牧場は 7 年前に大分で初めて、酪農教育ファーム認証牧場に認証されたんよ。認証を受けた牧場やけん、年間を通して体験をしてる。搾乳体験とか、子牛にミルクやったりとかする体験や、バター、アイスクリームの加工体験とか。学校単位であったり、保育園単位で来ます。9、10、11 月は体験が多い。1 年に結構来るよ。この前はうちの子供が行きよん保育園が 75 人くらい来たかな、親子で。あと、農業文化公園で出張したり、杵築プロジェクトもしちょん。杵築プロジェクトっち言うのは、児童養護施設の中学生がうちの牧場に来て、ガッツリ仕事をするの。今年で 2 年目かな。あと、筑波大学の大学生の受け入れもしてる。17 年間大学生を受け入れてきたけん、今までで 150 人ぐらい来ちょんのよ。毎回、9 泊 10 日くらいする、多い時は 12 人来る。

俺の他にも認証された人は何人かおっちょって、前からずっと認証を取りたい取りたいっちいいよったんやけど。大分県は農業の発信とかに関してはちょっと遅れちょんのよな。やっと 7 年前に一期生になれたんよ。認証のシステムを県が知らなくて、認証牧場になりたいって言っても中央酪農会議に紹介してくれんかったんよ。認証されるには中央酪農会議っち言う団体が牧場に来て、審査をする。あと、経営者が研修を受けて合格すれば認証牧場になる。

俺がこういうのを始めようと思い始めたのは、大学の時かな。筑波大学に行ってよかったなあってほんとに思うよ。帯広に行ったらそのままの視野のままだったんだろうけど。筑波で広がったみたいな。全然違う視野がばーって広がった。今までと違って、周りに頭いい人しかいないし、その中で俺はどうやって生きて

搾乳体験をする子どもたち

行けばいいんだろうかって。あと、周りの人たちは農業に関して無知だって言うように感じた。ほんと今まで農業高校行って当たり前やったことを誰も何も知らない。農学部なのにわからないっていうことですよ。皆に知ってもらうにはどうするのが一番手っ取り早いかなって思うと、俺が情報提供者になるのが一番早いなって。今まで農業者から発信をしてこなかったから、消費者の人たちとの距離が大きくなった。それを縮めていくのは農業者でしかできないことやから。なおさら牛乳なんてところはさ、途中にみどり牛乳*さんが入るから、もう消費者と直接付き合うことがないんよね。だからそれは消費者に牧場に来て頂いて、体験して理解して頂くって言うね。

これからのことについては、今のところうちは現状維持。労働力的に精一杯やから。とりあえず、これを維持していく。うちの子供たちについては、もう自分たちがしたいことをすればいいと思うし。うん、まあその選択肢の中にうちがあれば良いのかなと思う。あとは、こういう体験だよね。こういう体験をもっともっとしていく。理解醸成活動って言うのかな。今の時代は６次産業とかいって「加工して物を売りましょう」って言うのが流行ってるけど、俺はそうじゃなくて、牧場にいる人として、「牧場を教育の現場として利用しよう」って言うのをしてるから。これを 10 次産業*っていうんやけど。それをもっともっと色んなところでやっていきたいなあという。教育プランを売っていく感じ。俺は基本お金払わないとしないよ。俺の疑問なの。田舎に行けば行くほど、こういうことはボランティアで無料でしてもらうもんだって皆思ってることが。そうじゃないですよって…。これも教育の１つ。勉強する場なんだから、なんでそこに対価を払わないのっていうのが俺の考え方やから、絶対にお金は貰います。そこにお互い利益が生まれなきゃいけないことだからって言う感覚。そして、「その対価以上のものを私は提供しますよ」って言う考えの中で俺はやってる。これからもそういう活動を続けていきたいと思ってる。

* みどり牛乳…九州乳業のこと。

*10 次産業…
第１次産業の農業生産と農産物を加工する第２次産業、販売を行う第３次産業を足し、第６次産業とし、これに観光農園という第４次部分を加えたものが、第 10 次産業といわれる。田畑さんは、酪農を観光や教育の場として拡げようとする発想を持っている。

取材日〔2017年9月23日・10月9日・2018年１月8日〕

Profile

体験者に搾乳体験の注意をする名人

田畑 修一【たばた しゅういち】

生年月日：昭和56年１月13日
年　　齢：36歳
職　　業：酪農家

略歴

▶略歴:1999年に大分県立山香農業高校を卒業。2002年に国立大学法人筑波大学を卒業後、両親の経営していた「たばた牧場」の後継者となる。2010年に「たばた牧場」が酪農教育ファームに認定される。全日本ホルスタイン共進会への出場、大分県食育推進委員会・大分県産業教育振興会理事への就任など。

【取材を終えての感想】

私は今回田畑さんご家族に会い、お話を聴くことで学校では教えてもらえないようなことを学ぶことができました。

牛の一生、牛乳ができるまで、エサの種類。私は今まで16年間牛乳を飲んできたのに、牛乳のことについて何も知らないのだと改めて感じました。

また、私のように農業について知らない消費者に農業のことをもっと伝えたいと語る田畑さんは農業者であり、熱意のある教育者でした。私たち３人は搾乳体験にも参加させて頂きました。体験にきた親子がバターやアイスを作り、笑っている様子を見て、楽しみながら農業について学べる場所は大人にも子供にも良い影響を与える、大切な場所なんだと改めて感じました。そして、今まで知らなかった地元山香の歴史に触れることができ、嬉しかったです。知る機会を与えてくれた田畑さんご家族にはとても感謝しています。

（2年　船木 たま美：写真右）

私は今回の聞き書きで様々なことを学ぶことができました。その中でもっとも感じたことは実際に経験しないとわからないということです。まず取材にうかがう前にいただいた名人についての資料を見たときは若手なのに頑張っている酪農家なのかなと思ってました。しかし実際に名人とお話をお聞きすると私が考えていたよりも多くのことをされていてその活動もすべて意味のあるものだと思いました。いただいた資料にもそのようなことは書いてありましたがその小さな文字では表せない名人の思いが活動１つ１つに通じているのだと思いました。そして名人はもちろんのこと、名人の家族や青年団の方々にもとても優しく私たちのわからないことを教えていただき、人の持つ暖かさというものを感じることができました。今回の聞き書きを通して私は社会のいろいろなひとの役に立つような仕事をしたいと思いました。この経験を活かしてしっかりと進路を定めていきたいと思いました。

（2年　真砂 海翔：写真左）

なんとなく楽しそうだという軽い気持ちで参加した聞き書きでしたが、学ぶことが多くありました。田畑さんは、「消費者と農家の距離を縮められるのは農業者だけ」と、一般人を自身の牧場へ積極的に受け入れています。そこでの教育に関する熱意あふれるお話は、自分にしかできないことを考える大切さを私に教えてくれました。

また、田畑さんのこれまでの努力を私も見習うべきだと感じました。例えば、田畑さんは就農したばかりの頃、牛についてまるで知らなかったとおっしゃっていました。ですが取材中、牛の胃の大きさから牛乳の細かな成分の特徴まで的確に答えてくださいました。そして牛の人工授精の免許を取るために１ヶ月間久住に通われたことなど、尊敬する点が多くありました。

このように、約２日間本物の仕事に触れ、様々な教訓を得ることができました。ときには楽しく、真剣な思いを語ってくださった田畑さんに本当に感謝しています。

（1年　高橋 知花：写真左から2番目）

試行錯誤の耕転事業

～川をよみがえらせた青ノリ採り名人～

小野 高則（大分県宇佐市）

聞き手：川嶋 勇輝・渡邉 康太（大分県日出総合高等学校 総合学科）

最初は漁師好かんかったけど

私の名前は小野高則。昭和 14 年の 10 月 18 日生まれで、今年で 78 歳になるんよ。生まれは宇佐市の長洲で、長洲中学卒業。家計が苦しかったから、高校には行けんかった。中学出て、すぐ漁師になれち言われたけど、漁師が好かんかったんですよ。とにかく高校行って野球したかったけど行かせてもらえんかったから、1 年間浪人しちょるんよ。でもすねたところで仕方がないから漁師になった。本当なら後継ぎは兄貴になるんやけど、兄貴は目があまり良くなかったけん、兄貴の代わりにお前がやれち言われて私が後を継いだんよ。漁師は「山立て」っちゆうて、遠くの山の位置を見て、魚を採る位置を見極めたりせないけんからね。

継いだあとにすぐ結婚しんたんやけど、前の奥さんが病気で死んだけん、2 回目の結婚をしたんじゃ。今は、その奥さんと 2 人で元気に漁師をして暮らしています。

大好きな野球がくれたもの

小学校 4 年生から上級生に誘われて野球を始めました。その頃は、戦争が終わって 5、6 年で本当に貧しかったから、ボールもまともなのがなくて石ころをぼろぎれに詰めてボールにしちょったよ。ポジションはピッチャーとショートやった。

社会人になってピッチャーをしちょったときは、当時は珍しい部類で、手首が柔らかいもんやから変化球が切れるんよ。県大会でもあと一歩で優勝というところまで行けたんよ。打撃面でも、結構打てた方やったから、自分が打ってランナーを帰して点が入ったときや自分が生還したときは、そりゃあ嬉しかったですよ。

トロフィーもいっぱい持ってますよ、最優秀投手賞

バッターとしても活躍していた小野さん

とかね。なにより、野球が私にいろいろな力をつけさせてくれたちゅうことや。ピッチャーはある意味孤独に戦わんといけんし、決断力が必要や。手首とか体のしなやかさも今の仕事に活かされちょるな。

病気で手術して 65 歳で引退するまでピッチャーしよった。自分が生きてきた中での最高の娯楽のひとつに入っていると言えるんじゃないかね。孫も野球をしちょるから、今でもその練習につきあったりして、孫のおかげで運動するから健康なままじゃ。

道具へのこだわり

青ノリ鉤

青ノリを採る道具は青ノリ鉤（かぎ）っちゅうてね。自分で扱いやすいような形にこの角度を合わせてあるわけ、角度が全部違うんですよ。でね、自分がやっぱ一番扱いやすい道具でもって青ノリを採るわけね。

青ノリ鉤が折れるちゅうこともあるし、折った人もおるけど、まず折れないね。万が一、壊れたときは、見本を持って行って、こういう物を作ってくれんかち、鍛冶屋にお願いするんじゃ。昔は鍛冶屋が多かったけんど、今はおらんから、昔、鍛冶屋をしよって今は鉄鋼研ぎをしよる人にお願いするんじゃ。この辺は漁港の町やから、船のエンジン周りがわかる鉄工所も多いから、刃が折れたら、そういうところで補強してもらう。青ノリ鉤は、まず 2 本持っていたら大丈夫。私のこの鉤の年数は恐らくもう 60 年位になるんやが。青ノリ鉤は 1 回作ったらね、まず一生物ですよ。大事にしますからね。

でね、この柄の部分の竹を押さえた時にね、しなったほうがいい。これが曲がらないような強い奴はだめ。なぜそう言うのかって、船に乗ったらようわかるんじゃけど、採る時になったらね、鉤に引っかけて採るわけね。で、こん時、青ノリの重みで竹がちょっと曲がるんよね。曲がったやつを水際で、その反動を使うわけ。そしたら今度、船まで青ノリが飛ぶんですよ、バーンって。それはまぁ名人の技ですけんね。

誰でもねぇ、水の中で引っかけるところまではできる。そして水際から船に採る時に、その技術がね。素人がやると引っかかったまま採れない。採れなくて何回もしないといけないから時間がかかるし品質も下がる。

青ノリ鉤で青ノリを引き上げるところ

組合で守る伝統の青ノリ作り

駅館川の中流のこの辺も漁場じゃから、青ノリが付くんよ。ここから赤橋が見えるでしょう、あれから 200 メートルぐらい上まで青ノリが採れるんじゃ。採れるのは 2 月とか 3 月、寒い時期だけ。その年の天候によって違うけど。

採る位置は、組合長さんが「今日はここからここまで採りますよ」ということを決めます。組合長の笛で組合員が一斉に採り始めます。そして、船に積んだ量を組合長が確認してストップを掛けます。これが青ノ

一斉に青ノリを採る組合員たち

リを採りすぎないようにするための組合の中の鉄則ですね。大体 15 分か 20 分くらいの時間帯でストップをかけます。

だから腕のある人とない人ちゅうのはハッキリ言って、それだけ差が出ます。うちがまぁ仮に 4 キロ採ったりすりゃぁ他の人は 2 キロ、1 キロとか。自分の船に積んだ量ちゅうかね、採ったキロ数ちゅうのは全部自分のものになりますから、真剣勝負ですよ。

その次に収穫して終ったら「明日はここからここまで採りますよ」ということを、皆さんに連絡を取ります。そしたら、軽トラックに積み込んでここから 1 キロぐらい上に上ったところに、洗い場があるんですよ。そこできれいに泥を落として小石を取ったりとかしてね。ほってそれを洗ったら水をよく切って、切ったら家に持ち帰って倉庫中にかけちょきます。水がよく切れてから、ほら乾燥が早い。そして次の日の朝 6 時ぐらいに起きて、この写真（右）のようにずっと青ノリを干していくわけ。

ほんで 1 時間半から 2 時間ぐらいたったらね、‘あせり’ちゅうてね。今度は乾燥あんまりしたら、くっつきよっちゃってね。青ノリ広がらんのですよ。あま

採った青ノリを洗っているところ

り乾燥しちょらんうちにあせっていく（広げる）わけ。ほったら糸みたいに、こうきれいにぶら下がります。

そうしてそれが終わって 2 時間ぐらい休んじょったら､頭を持ちあげていくんです｡ロープに掛かっちょる分は、間に風が通さんでしょうがね。ぶら下がった分は風通すから乾くけど、重なっちょんところは乾かんから、これをねぇ、‘頭持ち上げる’と言ってね、つまんで持ち上げていくんです。

そしたら、もうそれでもって、その日の工程が終わりなんです。あとは乾燥室で 2 時間ぐらい乾燥して、

1枚1枚広げて乾燥させている青ノリ

「もう乾燥できたな」というのがわかれば、次の日は収穫していくと、それの繰り返しです。

こうやって手間暇かけてできた青ノリは、他では味わえない絶品の色と香りになるんよ。これほどの質のいい青ノリはもうあまり見られんわ。今はここ以外、四万十川しか天然が採れよらんやろが。

うちのはそこら辺で売っている青ノリとは全然違う。天然ものが採れると言うことはものすごい財産なんや。大分県が誇る財産といっていもおかしくない。全国放送のテレビ番組や新聞社も取材に来てくれた。ありがたいことに、あちこちの業者やがレストランが注目してくれて高値で買ってくれる。やけん、今年は青ノリが手に入らん。人気がありすぎて、在庫がなくなってしまったんよ。

今は時期が違うから、今度、青ノリが採れるときにきたら、生の青ノリをごちそうするよ。うちでは青ノリを刺身にして三杯酢で食べるんよ、そらおいしいよ｡青ノリは同じ場所から３回目まではやわらかくて、生で食べてもおいしいんじゃ。それ以上摘んだら堅くなるからね。

乾燥した青ノリと生の青ノリの三杯酢

人がもたらした川の汚染

昔の川は今とは全く違い、裸眼で川の底までみえるほど澄んどったよ。それはもう今のように工夫をしなくても魚が勝手に捕れるくらいにね。川が汚れたのはいろんな理由があるじゃろうけど、日指ダムができたのが大きいじゃろうと思う。そりゃあ、ダムは川の氾濫を防ぐし、みんなを守ってくれちょる。宇佐平野の田んぼは長年水不足で苦しんできて、ダムをつくって農業は助かったわけやけど、その分漁業にしわよせがきちょる。昔は水量が今の 3、4 倍もあったわけ。だけん流れが早かった。水量が減って水が流れんと水が濁ってしまう。うちが思うに、ダムがもともとは川の養分になっちょった山の腐葉土をせき止め、ダム底でヘドロにしてしまったわけ。台風時に水を解放するんやけど、ヘドロ混じりの汚れた水や。川底の石を見たらわかるけど、真っ黒に汚れちょるやろ。これじゃあ青ノリがつかん。それで青ノリの漁獲量が急激に減る事態に陥ったわけや。

川の変化は皆さんでも感じることが出来ます。昔は子供たちが川で遊びよったけど、今はまったくといっていいほど、ほとんどの子供たちが川では遊ばんなったね。濁った川は危険やから。子どもの遊び方が変わってしまったせいでもあるやろうけど。

石に苔がつき、青ノリの生育を妨げる

耕転事業の始まり

昭和 45 年ぐらいに私が組合の理事になっちょんだけど、もう青ノリが採れんごとなっちょったんじゃ。私が理事会の中で「川の中に川を作ろうじゃねえか。川をね、10 のモノを、3 分の 1 に狭くしようじゃねえか。その中に全部水を流そうじゃねえか。そうすりゃぁ 10 のモンが 3 分の 1 の中に流れるから、水量が増えて青ノリが育つんじゃねぇか」と当時の組合長に提案したんよ。「ほーう、そんなことができんのか。どげぇすんのんかやってみな」と組合長から言われたんで、うちが具体的に図面を書いたんですよ。それを組合長に見せて「おーそれいい知恵じゃの。やってみよう」ということから始まったのが耕転事業です。

地道な努力のおかげで

今、石の土手が川の真ん中に 2 つあるんな。川が 3 つに分かれている感じになっている（写真参照）。これは自然じゃなくて人工的にバックホーンというショベルカーで石をすくったわけ。

人工的につくられた石の土手の間は水深 80 センチ

一番難しかったのは、水位の深さが、青ノリの収穫に物凄く関係するんですよ。最初の方はまぁ大体 50 センチの深さじゃったら、青ノリがよう付きよったけん、50 位でいいんじゃろうということで、それよりちょっと深いかなっちゅう位な感じやったですよね。

ほって、やってみたところはねぇ。少しは結果は出ちょんのんですよ。やけんが、自分たちが思っちょん程の結果が出ちょらんわけ。これはダメだと、まだいい方法があるはずじゃということで、まぁ 10 センチ下げようと 60 センチの深さにしようという事で 60 にしたわけ。またやっぱ結果はついてきよるわけ。50 よりも 60 の方がやっぱノリの質もいい。川が深くなれば直射日光を受けても水温が上がりにくいから青ノリの色落ちがしない。じゃから、青ノリがきれいなんですね。ほんなら思い切って 80 にしてやろうと。で、やっぱその結果はついてくるんですよ。ほんでまぁ、80 で 3 年ぐれぇ引っ張ったんかな。さらに 10 下げようと 90 ぐれぇにしようと下げたことも

あったけど、今度は深すぎても、石に日が差さんで菌が付きにくいから、ある程度、直射日光が当たらんといかんのやちゅことで、今は 80 で落ち着いちょる。

ほってね、去年、ちょっと流れが速すぎるからっちゅうことでね、うちが石の土手の横 3 か所ぐらい 2 m 幅の穴を開けたんですよ。前は開けんで一気に流れよったわけ。ほって水の流れが速いから青ノリに当たる抵抗が強いじゃないですか。強いっちゅうことは青ノリが揺れて切れるわけ。

去年は天気もよくて、今までの中でねぇ、一番良かったんですよ、本当に。もう、自分としても申し分のないような青ノリも採れたしね。今年もこの調子でやろうかなぁという、一応目標を立てています。

で、バックホーンで川底をさらったら、石を出して洗わないといけないちゅうこと。石を掘り起こしては洗ってきれいにするわけ。温暖化の影響かしらんが、水温が上がりすぎると、石に苔がつき、青ノリの生育を妨げるんじゃ。だから、人間の手で石の苔を地道に落としたりもする。このみんなの地道な努力のおかげで、今ではこのあたりの汽水域（淡水と海水が混ざるところ）では、青ノリだけじゃなくて、シジミやウナギなど川の幸がたくさん獲れるようになったんじゃ。

しじみやウナギもとれるようになった川

自然との駆け引き

青ノリは、天候にものすごく左右されるんですよ。青ノリを採るでしょう、今日採ったとして明日は干すわねぇ。で、干し上がった次の日は、天気予報で曇りマークじゃったらどうするか、ここが問題なんですよ。こらまた組合長の考え方じゃね。次の日からの週間天気予報を常に見ちょるわけ。ほで、「よし、この曇りマーク、明日は晴れになるだろう」と思えば、曇りマークの時に青ノリを採ります。ほったなら、青ノリ採った次ん日がいい天気になって干されるわけだから。でも、もし晴れると、もう次から次へと伸びが早いんですよ。まぁ、大体 1 日に 30 センチぐらい伸びます。だから日にちをおくちゅうことはあまりいいことじゃないんですよ。

収穫量は多いけどんが、こんだぁ結局は採る量ちゅうのは決まっちょんじゃないですか。組合長がみんなの様子を見ながら、この船は大体は積んだなあと、もうこれ以上積んだっち商品価値のいい商品ができないから、早めにストップかけようと。結局は残った分は伸びていくわけやから。伸びていけば潮の抵抗がかかって揺れながら切れて流れる。そこらへんの駆け引きがねぇものすごう大事なんですよ。そこがやっぱり組合長の腕の見せ所ちゅうかね。

うちはもう役員も長いし、組合長も長いから、経験を活かして、あん時はこうじゃったから、今こうじゃったら採った方がいいかなというふうに自分の中で組み立てて、結局は自分で判断して「今日は採るよー、今日は休むよー」とか指示していくわけ。ほんじゃから、なかなかねぇ 10 何人役員がおっても組合長になると返事しきる人はひとりもおりませんよ。そらそうや。ゆったらあんた責任があるでしょうが、組合長は。だから誰も次に組合長になると言えんのですよ。うーん、難しいんじゃっちゃ。

小野高則の叶えたい夢

私には残りの人生をかけて成し遂げたいことがあるんよ。それは青ノリのブランド化です。今現在、宇佐市水産課の指導もあって、地元の会社と協力して考えているのは、組合の中でグループを作って、ひとつひとつに品質管理の責任者を置いて、質のいい青ノリを効率よく出荷できんかということ。なんとか安定して

取材の様子

出荷できる方法を考えんと、漁師も高齢化で採る人が少なくなって、青ノリも手に入らなくなるやろ。このことが今叶えたい夢、人生最後の賭けですよ。でも、その意志を継いでくれる人がおらんから困っちょるんよ、後継者を探さんといけんのよ。

〔取材日:2017 年 9 月2日·10 月 1 日·12 月 24 日〕

Profile

小野 高則【おの たかのり】

生年月日:昭和14年10月18日
年　　齢:78歳
職　　業:長洲河川漁業協同組合　代表理事組合長

略歴

▶昭和30年　宇佐市立長洲中学校卒業
　昭和40年　河川漁業を始める
　平成 9年　水産資源保全と伝統漁継承への取組み

現役時代のユニフォームを着てくれた名人と高校生

【取材を終えての感想】

私の、青ノリを作る小野高則さんに取材しての感想は、なんといっても好きなことに対する情熱です。

まず、野球がとても好きな方で、小学 4 年生からやっていて、そのころからたくさんの大会に参加してたくさんのトロフィーを持っています。ポジションはピッチャーでフォークやカーブ、スライダーなどの変化球が投げられたようです。そのときの“手首のしなり”などが昭和 15 年から現在まで続けてこられた青ノリ漁に活かされていると小野さん本人がおっしゃっています。

そして、小野さんは、青ノリ漁成功の元となる耕転事業を発案します。このおかげで、青ノリの漁獲量が一気に膨れあがります。ですが、その成功の陰には、耕転事業が成功するまでに何回もの試行錯誤を繰り返しています。つまりは数ある失敗があってこその耕転事業なのです。

小野さんの、人生や仕事におけるモットーは挑戦だそうです。そして、今現在もご自身の夢である青ノリのパッケージ商品化に全力で取り組んでおられるようなので、私もこれからの人生、小野さんのようにいろいろなことを経験して、そして自分自身の目標に挑戦していきたいと思っています。

(2年　渡邉 康太:写真左)

今回、お話を聞かせていただいた小野高則さんは、川幅の調節という誰も思いつかなかったアイデアをだして、採れなくなっていた青ノリをまた採れるようにした方です。

この方からお話を聞いていて、私はどうしてそんなことを思いつくのだろうかと不思議でなりませんでした。

私は今まで青ノリといったら、たこ焼きやお好み焼きにかかっている粉といった脇役的なイメージしか持っていませんでした。恥ずかしい話ですが、青ノリは一般的におにぎりに使われる海苔を小さく切ったものだと思っていたのです。

しかし、今回このような貴重な機会をいただき、実際現地の川に行ってお話を聞かせていただき、私のこれまでの想像と全く違うことがわかりました。川で採れる青ノリがどのようなものかだけでなく、青ノリがどのような思いで作られているか、少しは理解できたと思います。その他にも、今と昔の青ノリ産業や、ダムによる河川の水量の減少など、いろいろな話を聞かせていただき、今回の「聞き書き」の体験は私にとってとても充実したものとなりました。

(2年　川嶋 勇輝:写真右)

若手農家の決意

～農業が途切れることなく、ずっと～

高原 淳平（大分県速見郡日出町）
聞き手：徳光 真衣・永松 志菜（大分県立宇佐高等学校 普通科）

幼い頃からみかんと育った

僕は高原淳平（たかはらじゅんぺい）です。今 33 歳で、生まれも育ちも日出です。みかん農家です。兄弟は、３つ下に妹、６つ下に弟がいます。でも、みかん作りを手伝ってもらう予定は一切ないですね。この家に住んでる家族だけで出来るようにと考えています。ここに住んでいるのは、じいさん（良二（りょうじ））、ばあさん（志女子（しめこ））、親父（毅（たけし））、おふくろ（和美（かずみ））、僕と奥さん（幸（さち））（平成 29 年３月に結婚）の６人です。じいさんは引退し、おふくろ、奥さんは外で働いてるので、親父と僕とばあさんの３人でハウスみかん 40a（アール）（＊ 1）デコポン 35a をハウス栽培（＊ 2）しています。露地で栽培しているみかんも少しあります。

この家は標高 600 メートルの山のふもとにあり、別府湾と杵築市を一望できる場所にあります。じいさんばあさんは生まれが徳島で、若い頃にここに来たそうです。じいさんたちが徳島にいた頃は、いろんな作物を育てたり、冬は炭焼きしていたそうです。徳島の山奥に住んでいて、不便だったそうです。この辺につてがあって、移住してきたと聞いています。じいさんばあさんはゼロから始め、並々ならぬ熱意によって最盛期は 3ha（ヘクタール）くらいの畑を栽培し、管理していました。約 40 年前に親父が家の農業に従事してからハウス栽培へと転向し、量より質を追求し、高品質なみかんとデコポンを施設栽培しています。

僕は地元の小中学校を出てから高校は、山香農業高校（＊ 3）に行き、高校時代は寮で生活してました。大学は東京農業大学に行きました。東京農大の農学部って、実は東京じゃなくて神奈川県の厚木市にあるんです。日出を出て５年、改めて日出の良さに気づきました。都市部へ行くのもアクセスが良いし、見晴

高原さんのみかんハウスが並ぶ日出の風景

らしも良い。近所のおじちゃん、おばちゃんは皆、身内のような付き合いで、何より住みやすい。家で仕事がしたい、と思ってました。外で仕事がしたいっていう考えがあまりなかったので、農家を継ぐのは、必然っていえば必然ですかね。

農業の手伝いは、僕が物心つく前からしてたそうです。水やりをしてる３歳頃の写真があるんですよ。現在デコポンの２号ハウスがあるところは、昔、露地みかんがあったんです。そのみかんの苗を植えた時の写真。親父がみかんの苗木を植えた後をついていってホースで水やりしてました。実際自分で手伝いといえる手伝いを始めたのは、中学生くらいからです。みかん作りというか、農業で暮らすのが嫌だと思ったことは一度もありませんかね。

露地みかんを収穫する高原淳平さん

すべて自分次第

１年を通して、みかん作りの作業は何かしらあります。農薬散布、摘果、枝つり（＊4）、水やり、収穫、剪定など、それぞれの作業を定期にしなければならないのです。「明日でも良いかな～」て思ってたら、どんどん作業が山積みになりますから。家で農業するのって、気ままでいいんですが、すべて自分次第ですね。夏休みの宿題を先延ばしして、一気にやるようなことはできない。自分たちで計画をして、準備して、どんどんやっていかないと。お盆になっても、まだみかんがなってる、なんてことにならないようにしないと。ハウスみかんは御中元をねらって出荷します。そもそもそのための加温栽培ですからね。ハウスみかんの収穫期は全国でみると４月中旬から８月下旬くらいまで。大分県の場合、全国で最も早いです。４月中～下旬からです。収穫期は一番忙しいですね。

「明日にしよう」と言ってたら、出荷量が足らないですから。収穫の時期だけは朝５時から始めて、選別までやって１日の作業が終わるのは、夜９時。それを収穫終わるまで毎日続けます。何か特別な用が無い限り休みません。そんな中、一人が働きすぎて疲れがたまり、怪我したり倒れたりしたら残り二人にしわよせがくる。だから、お互い無理しすぎないよう、体調には特に気をつけます。自分では気がつかないこともありますから、顔をあわせたら、食事の進み具合や、顔色や表情を読み取るなどお互いの体調をみます。夏場の暑いときですから。

みかんの選別、出荷の条件は選果場の基準に沿って選別します。まずは、形、傷ですね。形が悪かったり傷があったりしても、基準に収まるようであれば出荷できますが、当てはまらなければ出荷はできません。選別する速度は速いですよ。見ただけで、だいたいの大きさがわかります。数をこなさないといけないので手早くしないと。でも、扱いは丁寧に。乱暴にしたり落としたら傷みますから。

収穫したての露地みかん

出荷先は広島、神戸がメインです。ハウスみかんは普段食べるものというより、暑いときに珍しい、ちょっと贅沢なものなんです。その分、高品質なものが求められます。ハウスみかんの価格は、販売開始から終了まで、徐々に落ちていきます。収穫したい時期にあわせてハウス内を11月から５月までの約７ヶ月間、ボイラーハウス加温機を使って加温します。設備費や燃料費はかかります。ハウスみかんは加温期間は長いし、加温期間中、最高温度を20度以上に保つ時期もあるので、大量に燃料を必要とします。

なので燃料の価格が上がると採算があわなくなりま

す。でも、露地みかんでは価格が低すぎて農業だけで大家族が暮らすには足りない。親父は、露地みかんの価格が暴落したのでハウス栽培に切り替えて、燃料費が高騰したから、燃料費を少しでも節約するために、ハウスのビニールを二重にしたり、プチプチシートを使用したりして、手間をかけ工夫して何とかやってきました。

冬は一昨年からハウスデコポンの収穫を始めました。無加温だと年が明けてからになるのですが、このハウスデコポンは 12 月中に出荷が終わります。これはお歳暮用ですね。

農閑期はあります。逆にそういう時がないと、農業はきついだけになってしまいます。でも、そういうときにも、みかんの世話以外にすることはあります。たとえば今（9 月初旬）は、ハウスの改修工事をしています。1 日のスケジュールは、春、夏、秋、冬で変わります。今の時期（初秋）だと 8 時半くらいから仕事を始めて、昼休みをはさんで、終わるのが5時半から 6 時くらいですかね。

初秋の露地みかん

おいしいみかんを作るために

みかんの木は植えてから、4 年くらいは木を大きく育てます。木が成長することだけに集中させて 5 年目くらいから、初めて実をならせます。苗を植えたらその年に実をならせるわけじゃない。実がならないと当然収穫も無い。ということは、4 年間、その土地は肥料や水などの経費はかかっても収入はない。そういうことを見込んだ上で計画を立て、経営しなければいけません。「ハウスみかんは高収入でいい」なんてこの時点では言ってられないんです。

また、みかんの実をならさないためにどうするかというと、花を全部とってしまう。花は時期が来たら毎年咲きます。その若い苗木についた花を全部むしる。すべての木の花をすべて採ります。

剪定も必要です。剪定しないとずーっと伸びます。毎年、枝を切るんですけど、切らなかったらもう 2 周りくらい大きくなりますかね。木があまり高くなりすぎると、いろいろと具合が悪いので、剪定して、木の形を整えていきます。

収穫の時、最も気をつけることは、ついた実に傷を入れないようにすることです。傷がついたら傷むのも早いです。それにハウスみかんは贈答用に購入されることが多いので、味ももちろんですが贈られた人が箱を開けて見て「きれい！おいしそう！」と喜んでもらいたい。収穫するときは、はさみと収穫用のカゴと、木が高いので脚立を使います。ハウス内は年中温度が高いので、みかんの木はよく伸びます。あとタオル。カゴは引っかけられるようにフックがついてます。他にも、より安全により効率よく作業できるように、ちょっとした工夫をしてます。収穫は全部手作業です。手袋をつけると、実が滑って落ちる。落ちたら割れるので基本素手です。デコポンの場合は、枝にトゲがあって痛いので、左手だけ手袋つけたりします。柑橘類は温洲みかん以外は、ほとんど枝にトゲがあります。かぼすやゆずの枝にもトゲがあるんです。意外に知られてないですね。

枝つりされているデコポン（根元に茅がしかれている）

木の根元に茅をしいている理由は、マルチングといって雑草を生えないようにしているのと、極端に乾燥するのを防ぐためです。水分が蒸発すると余計に水をやる手間がかかる。黒や白のビニールシートをふせることもあります。ビニールは購入費がかかるし、ごみにもなる。なるべく雑草取りなどの手間暇をはぶき、費用がかからないように工夫してます。肥料は、粒状

の万能肥料ですね。あとは牛糞たい肥がメインです。農薬は色々使うんですけど、主に殺虫剤、殺菌剤と成長調整剤。成長調整剤っていうのは、要は植物の成長を促進するものなんですけど、農業の分野で使われてます。栄養成長させるか、生殖成長を促すかで薬を使い分けます。害虫防除の方法は農薬散布してます。無農薬というわけにはいきませんが、口にはいるものですから、なるべく農薬は減らして、僕たちも食べてみて、見た目も味もよく、安心して食べられるものを心がけています。

ビニールハウスは一度建てたら、そのまま永久にもつわけではなく、経年劣化の具合を見て改修します。主に錆による老朽化が顕著です。錆びるというより、今では崩れてくるので、今年はハウス 1 棟、改修工事に着手しました。親父と話し合って、今まで崩してきた分を使うんじゃなくて、新しいのを買って、取り換えようということになりました。古くなると、見た目が悪いばかりでなく、台風の時に耐えられるかとか、暖房費が高くなるとか、お金がからみます。取り換え作業は基本的には、自分たちで行います。

基礎から交換（ハウスの鉄骨を支える基礎）

改修工事が行われているハウス

また、光熱費のコスト削減のためにビニールの張り方を見直して隙間のないように徹底するのと、今後、燃料費の大幅なコスト増があり得るならヒートポンプ（＊ 5）と重油を使ったハイブリット化をすることも考えています。ポンプの技術員には、「早く次世代型を考えて！」と頼んでいるんですけどね。

ウチのみかんのここがイイ！

ハウスみかんとデコポンの特徴はですね、これは両方に共通して言えることなんですけど、食べやすさです。甘さと程よい酸味、皮の部分が薄くて口に残らないような。あとはね、やっぱりジューシーさです。味は全然違いますよ。全然違うといっても、みかんなので、ある程度は一緒ですが。数値で見ると、デコポンの方が甘いんですよ。糖度が 13.5 度（＊ 6）くらいある。しかも食べるまでに時間をおくから、デコポンの方がその分甘く感じます。追熟するからですかね。

熟れてきたデコポン

3代目の決意

日出は温暖な気候とゆるやかな斜面を利用した 100 年の歴史あるみかんの産地です。ハウスみかん農家は最盛期には 50 数軒ありましたが、今ではたったの 5 軒。深刻です。その中で、僕は日出町産みかん最後の希望と呼ばれています。それは、僕より若い人がいないから。今、日出で農業している人のメインは 60 代から 70 代です。この近くでは、みかんに限っては、僕の次に若い人は 40 代が 2、3 人くらい。30 代は僕と 2 人しかいない。僕の次にメインになって農業をする若い世代の人は、まだ今のところいません。日出町だけでは考えられなくなりますよね。何年もしないうちに次を見つけないといけません。どうな

るんでしょうね。若手が少ないことについては、しょうがないのかな、と思います。でも、愛知県や高知県、九州では佐賀県だと、若い人もたくさんいるし、魅力がないというわけではないんです。増えてほしいです。農業する若い人が３倍くらいに増えて欲しい。僕は日出の農業青年グループの会長に今年なり、消費者交流会をしています。消費者として僕たちの商品を買ってくれる方と会って、実際に収穫体験をしたり、バーベキューをしたりします。今年は、かぼすポン酢作りをしました。消費者から「たまたまみかんを買って食べてみたら、おいしかった！　だから毎年買うようになった」なんて話を聞くと、暑い収穫の時でも、その人の顔を思い出して頑張れます。

日出ハウスみかんのご案内

他にも、違う作物の農家さんたちと話したりして自分に今までなかったところや、自分の視野を広げる勉強の場として集まったりしています。

日出町自体が観光からのアクセスや人通りもいいし、魅力も十分。私の住む集落は農家が多い。近くのみかん農家は広大で、今からでも、この集落の広大な農園を荒らさないよう、どうにか地域で活かせるように一農家として提案して、地域の活性化に努めていけたらいいな、というふうに考えているところです。

収穫体験中

忘れられない様々な体験

毎年悩まされるのが台風です。ハウスみかんは夏に収穫を迎えるので「台風が来そうだ、さあどうする」って毎年考えますね。実がなってないハウスはビニールを開けて風が吹き抜けるようにするのが一番安全。でも、実があるところは外すわけにはいきません。実が傷んだりしますから。そういう場合は全部ビニールをおろして換気扇を全開で回す。ハウスが吹き上げられると、持ち上がっちゃうし、横の面積があるから、風向きが悪いとつぶれることもあります。過去に倒れたことがあるので気を使います。被害額はハウス丸１つ分ってなると本当に困ります。

今まであった大きな失敗？　あー、ちょいちょいあります。今でもあります。自分で試してますから、いろいろ、こうやったらどうなるか、ああやったらどうなるか、いろいろやるんで失敗もします。たとえばデコポンでいうと、これぐらい摘果したらどうなるかなと思って、多めに摘果したら、なんかゴツゴツした実になって、「あぁ、ダメだ、これっ」てなったりとか。

摘果っていうのは、最初数千くらい花がついているんですが、生理落下っていって、木自身が「無理」と感じて落とすんですよね。その生理落下が１次、２次ってあってそれが終わっても、何百ほど残る。そこから先は人の手で取っていきます。この作業を摘果っていいます。

この仕事をやっていて、うれしいことは、収穫が終わる直前です。「あー終わるー！」っていう。始まる時もうれしいです。「やっと収穫やなー！」って。台風やその年の状態で、無事に収穫を迎えるのが当たり前ではないんです。醍醐味といえばやっぱ、農業をし

ている人はみんなそうだと思いますが、自分が作った商品を消費者に届けて、食べてもらったり、飲んでもらったりすること。そこですね。それはもう、農業する人みんな言ってました。「自分が育てたものを自信もって消費者に提供すること。それに尽きる」って。

引き継ぐうえでの僕の思い

農家の経営を引き継ぐ予定はまだたってないです。予定はまだですけど、「早ければ早いほうがいいかなー」と思っています。親父は「早く経営を渡したい」って言ってますけど、まだまだ一人で経営管理していくレベルにありません。今、親父と僕との関係は、見守ってもらってる、てことですかね。親父には何かあっても相談しないですね。全然。自分が作業してるのを親父が見てるだけです。指摘されるのがわかってるから、自分も相談しないです。逆に親父が何を言いたいのかもわかってるから、親父も言う必要もないと思ってるんじゃないですか。

不安なことは、やっぱずっと不安です。計画立ててやっていても自然災害、燃料の値上がり、輸出入の関税の変化など、どうしようもないことがいつ起こるかはわからない。コストがかかっているから損失が大きいんです。そんなとき「自分でやっていけるのかな」って。でも、不安って言い出したらきりがない。だから極力前向きに考えるようにしています。同志はたくさんいた方がいいです。同じ悩みを抱えられる。何とか解決しようとみんなで模索できる。悩みだけじゃなく、喜びや楽しみ、些細な出来事とかも共有することも必要ですからね。

左から初代お婆様（志女子さん）·3 代目淳平さん·2 代目お父様（毅さん）

伝えたいこと

僕はこの仕事が好きだから、うちのみかんをたくさんの人に知ってもらい、食べてもらい、気に入ったらもっと食べてもらいたい。そして、若い農家さんが増えて、農業が途切れることなく、ずっと続いてほしいです。高校生を相手にお金のことをいわないほうがいいと思いましたが、生活して農業を続ける上でお金は必要です。無いと生きていけません。でも、贅沢したいわけではなく、農業を、みかん作りを楽しみながら生活し、そして今後の事業を計画して経営していくだけの資金は必要です。このことをわかってもらってこれからの若い人に農業したいと思ってもらいたいですね。

説明を聞きながらみかん畑へ

[取材日：2017年9月10日·10月8日]

（＊1）アール; 1アールは、10m ×10m ＝100㎡。1 ヘクタールは、100m ×100m ＝10000㎡

（＊2）ハウス ;ビニールハウスの略称。露地栽培は温室や温床などの特別な施設を使わず露天の耕地で作物を栽培する農法。（ブリタニカ国際辞典より）

（＊3）山香農業高校; かつて大分県杵築市（旧·速見郡）山香町にあった公立の農業高等学校。2013 年4 月に速見郡日出町の大分県立日出暘谷高等学校とを統合して、大分県立日出総合高等学校が新設された。（ウィキペディアより）

（＊4）枝つり ;枝がデコポンの果実の重みに耐えられるよう、枝を細い縄でつっている。（写真参照）

（＊5）ヒートポンプ ;少ない投入エネルギーで、空気中などから熱をかき集めて大きな熱エネルギーとして利用する技術のこと。エアコンなどこれを利用している。（一般財団法人ヒートポンプ蓄熱センターより）

（＊6）糖度 ;果実の品質に重要な果汁指標として糖度（Brix 値）が用いられている。果汁に含まれるショ糖の量。（ウィキペディアより）一般的な柑橘類の糖度は10 度（管理栄養士の知恵袋（「ショクライフ」（管理栄養士 ·栄養士の転職サイト）より）

Profile

高原 淳平【たかはら じゅんぺい】

生年月日：昭和59年12月17日
年　　齢：33歳
職　　業：ハウスみかん生産者
　　日出地域農業青年連絡協議会代表

略歴

▶大分県立山香農業高等学校で農業について学ぶ。東京農業大学卒業後、就農開始。3代続くみかん農家。父親からは近い将来、経営を譲渡する旨を伝えられている。若手農業者グループへの参加、同じ志を持った農業者と積極的な交流を図り、情報交換や意見交換を行っている。毎年グループで各農業者が協力して消費者交流会を開催している。

【取材を終えての感想】

私は今回、世界農業遺産の聞き書き活動にはじめて参加しました。私はこの活動に参加するまで、世界農業遺産というのがどういったものなのか全く知りませんでした。しかしこの活動に参加して少しだけど世界農業遺産のこと、そして今、日出をはじめとした各地の農家で若手が足りず困っているということを知りました。

私たちは時期が合わなかったため、ハウスみかんの作業風景を見ることができませんでしたが、たくさんみかんについてのお話、農業青年グループのお話を聞くことができました。そしてみかんを美味しく食べてもらうために、若手農家さんが少しでも増えるようにと様々なイベントに参加している高原さんが本当にすごいと思いました。

この聞き書きをやってみて今度はサポートする側をやってみたいなと思いました。

そして、私たちの取材を快く受けて下さった高原さん、ご家族の方、本当にありがとうございました。

（1年　永松（ながまつ） 志菜（しな）：写真中央）

私が今回聞き書きをした高原さんの話で、一番印象に残ったのは、高原さんの若手農家としての決意です。農業従事者の高齢化を改善するため頑張っている、数少ない若手農家の一人で、「日出町産みかん最後の希望」と呼ばれているそうです。そんな高原さんの話を聞いていると、みかんに対する愛情や地元農業の未来への思いがとても感じられるとともに、農業を途絶やすことなくずっと続けようという願いが強く伝わりました。

みかんについて話される高原さんはとても笑顔で、高原さんに大切に育てられたみかんたちもおいしそうに輝いていました。ハウスみかんも露地みかんもとても爽やかで良い香りが印象的でした。収穫体験をさせていただいた露地みかんは、甘くてジューシーで本当においしかったです。

こんな素敵なみかんたちがずっと育っていってほしい。そのためにも、みかん農業の魅力に、この作品で少しでも多くの人に気付いてもらえたらうれしいです。

（1年　徳光（とくみつ） 真衣（まい）：写真右）

初代志女子さんに聞く
～日出との出会い～

■高原家の年表

昭和36年	徳島県勝浦郡上勝町から大分県日出町を視察（初代）良二（30 歳）·志女子（25 歳）·毅（5 歳）謙二（2 歳）
昭和37年	日出町藤原の土地を購入（1.8 ヘクタール）野菜作り（スイカ、馬鈴薯など）
昭和40年	みかん苗定植 1000 本 たばこ栽培（50 アール）5 年間
昭和45年	良二出稼ぎ（大分市内）7 年間 志女子一人で農業従事
昭和52年	（2 代目）毅卒業　農業従事 豚舎建てる · 豚を飼う。家の建立
昭和53年	豚の飼育 2 年目（母豚 60 頭 · 年間出荷頭数 1200 頭）（15 年間）
昭和59年	淳平誕生
平成3年	豚舎閉鎖
平成4年	カーネーション栽培始める（18 アール）9 年間
平成10年	みかんハウス（5 号ハウス）建立
平成15年	みかんハウス（6 号ハウス）建立 カーネーション終了
平成18年	デコポン定植 （3 代目）淳平卒業　農業従事
平成21年	みかんハウス 2 号開始。

今から 56 年前の話。

元々、淳平さんのおじいさん（良二さん）と、おばあさん（志女子さん）は、徳島の山奥の勝浦郡上勝町に住んでいました。山の斜面で、みかんや、いろいろな作物を栽培していました。志女子さんは 25 歳、子どもは 2 人､長男の毅 5 歳と次男の謙二 2 歳。子ども達は、うっかりすると山から転がり落ちるので、目を離せません。きつい農作業しながらの子育てでした。幼子をおんぶしながら、急な斜面を何度も上り下りする毎日です。田畑は、家から 4 ～ 5 キロくらい離れた場所に点在しており、弁当を持参し、子どもをかかえていくのは、大変でした。農作業を終えたあと、長い道のりを歩き、ようやく家に帰り、それからご飯の支度や洗い物、風呂の支度などする毎日。農閑期（冬）には炭を作っていました。

炭作りは木を切り、重い木を運び、木の幹を同じくらいの長さに切りそろえます。今のようにチェーンソーもなく、斧で一つ一つ切っていかねばなりません。木を炭にするのも、ゆっくり時間をかけなければ炭になりません。煙でいぶされ自分も真っ黒になりながら、木片がだんだん炭になっていくのを見守ります。できあがった炭を炭俵につめ、また、急な坂をかついで下ります。炭俵はとても重いのですが、何度も山を上り下りして運ばないとなりません。そうやって働いても、炭の価格はどんどん値下がりし、もらえるお金はごくわずかなものでした。

そんなときに上勝町から大分に移住した人から、「大分はいいよ」という話を聞きました。以下、志女子さんのお話です。

昭和 37 年 3 月日出の土地を耕そうと検分する良二さん

「昭和 36 年 11 月に、日出の土地を見に来た。毅は上勝町において、謙二をおんぶして主人と日出を歩きよったら『ここの土地、譲っちゃるで』と、おじいさんに、いきなりいわれたんよ。おじいさんは日出の養鶏場の持ち主で､『ここら辺の人はみんな良いし（人）や。ちょうど今夜寄り合いがあるけん、酒一本買って出てみんね。わしが口きいちゃる(＊1)』といわれたんよ。それで酒買って寄り合いに出させてもらい、近所の人の話聞いた。近所の人も親切で、土地もまとまった平地があり､家のすぐそばで農作業できる。気に入って土地を買う約束して帰った。

義父母にその話したら、義父は､『本当に契約するなら、このお金を使え。契約せんのならこのお金で旅行

しておいで』と、10 万円(＊2)出してくれた。私らは土地を契約することに決めた。1.8 ヘクタール（山林 60 アールを含む）の購入金額が 125 万円だった。

昭和 36 年 11 月　初めて日出に行く関西汽船の船上
左：謙二君 2 歳　右：志女子さん 25 歳

いよいよ上勝町を出るという前の晩、私だけ義母に呼ばれた。義母は『息子の良二は、一人きりでは日出には行かんやろう。あんたがここ（上勝町）に残ってくれたら、息子も孫たちも残ってくれる。どうか残ってくれんやろうか？』と私に頭を下げた。主人は長男やし、毅も謙二もかわいい。義母はこのまま一緒におってほしいんやとわかっていたけど、私は日出に行きたいばっかり。上勝町は坂がきつい、田畑があちこちにあって、家から遠く離れていて不便。ということもあるけど、何より子どもが大きくなって、中学を卒業する頃のことを考えた。私が中学卒業したとき、親から『志女子が高校へ行くためには下宿せんといけん。上勝町から高校に行くためのバス停まで 1 時間かかる。バスに乗って高校まで小一時間かかる。ということは、下宿せんと間に合わん。私らにはそんなお金はない。下宿代出しきらん』といわれ、はがいかった(悔しかった)。私は高校に行きたかった。勉強したかった。私の子どもにはそんな思いさせたくない。子どもには高校に行かせたいけど、このままやったら、私も下宿代出しきらん。そう思って、頭を下げる義母の前で、私も義母より低く頭を下げたきり、『遠くにいかんで』という義母の顔を見れんやった。

昭和 37 年 2 月 28 日に日出に移住した。それから土地を耕し、畑を広げていろんな作物を作った。すいかや馬鈴薯をつくったりして市場に持って行って売った。3 年後にはみかんの苗木を 1000 本植えたが、みかんの木が大きくなるまでは収穫できない。みかんの実を収穫できるまで 4 年はかかる。その間 50 アールの土地でたばこを栽培した。主人は昭和 45 年から 7 年間、大分市内で大工や土木をして働いた。私が一人で農作業をした。幸せなことに、子ども達は二人でどろんこになるまで遊んでくれて、手がかからんやった。

昭和 37 年　ときにはけんかも。
三輪車を毅君（左）にとられ、なきべそをかく謙二君（右）

そうこうするうち、子どもも大きくなり、みかんも育って収穫できるようになってきた。でも、露地みかんの価格は下がってきた。いろいろ工夫してなんとかやってきた。

昭和 52 年になり、やっと少しお金が貯まったけん、家を建てようとしよったとき、『豚を飼う』っち、主人が言い出した。家はあばらやで、こんなあばらやでは息子に嫁が来てくれん。ちゃんとした家を建てようっち言よったら、主人が『豚小屋を建てる』っち言い出した。主人は一度言い出したら、人の言うことはきかん人や。飼料会社から借金して、豚小屋を建てて、家も建てた。昭和 53 年、豚を飼って 2 年目で母豚 60 頭、年間出荷数 1200 頭の豚を育て 15 年飼った。平成 4 年から 18 アールの土地でカーネーションの栽培を 11 年した。長男の毅が経営主となり、みかんのハウスをだんだんに増やしてくれた。強風が吹いてハウスが倒れたり、オイルショックがあり、燃料費が高騰して大変な時もあった。近所の農家さんは農業をやめていって、不安な時もあった。けど孫（淳平さん）は東京の大学で学び、卒業後帰ってきて農業してくれよる。ずいぶん期待しちょったけん、嬉しかった。このまま、大きな悪いことは起こらず、ハウスみかんを続けていけたら、と願っちょる」

(＊1)紹介する。

(＊2)昭和40 年の大卒の初任給は3 万6 千円。平成24 年の大卒の初任給は20 万18 百円（厚生労働省賃金構造基本統計調査より）※昭和40 年以前は調査なし。

石橋への思い
～石橋を愛してやまない男～

向野 茂（大分県宇佐市院内町）
聞き手：植垣 小雪・西尾 隆馬・宮脇 海（大分県立宇佐産業科学高等学校 グリーン環境科）

石橋に出会うまで

私の名前は、向野茂です。生年月日は、昭和 10 年 2月8日で、82 歳になります。君たちのおじいちゃん、おばあちゃんの世代ですね。生まれた所は、同じ宇佐市内ですが、旧八幡村下乙女で、戦争時代、宇佐海軍航空隊飛行場のすぐ近くで、戦前、戦中、戦後を過ごしました。

八幡中学校、四日市高等学校から、大分大学教育学部 4 年制中学校数学科に進学しました。私は自然科学が好きだったので、よく理科部の教室を覗き、聴講したものです。「これが石橋好きの原因になったのかな？」と思っています。小中学校の教員として 37 年間勤めて退職した後、地域の区長や公民館長、文化財調査委員、人権擁護委員など、あれやこれやさせてもらいました。今は院内町石橋群環境保全協議会委員をしています。

ここは、宇佐市院内町新洞ですね。宇佐平野の駅館川を遡り山中部にはいってすぐに、恵良川と津房川が合流した上の台地に位置しています。

私は、53 年前に縁あってこの地に来たんですよ。君たちが、さっきうちに来る時に見たという私の家の近くにある鳥居橋（上掲写真。5 連アーチの石橋で、「石橋の貴婦人」という異名あり）を見たとき、「うわっ、この石橋はすげーな！」と、感動したんですよ。

「なんということだ。ほっそりとした足が、重量感のある石をいとも簡単に支えており、美しいふたつのアーチが橋脚の上にきて、ぴっちりとくっついて、長くかっこいい足が川岸の岩盤に食い込んでいる」

それが石橋への興味関心を高めるきっかけになったんですよ。研究の手始めに、まずは院内の石橋をいっぱい見て廻らないといけませんよね。

私の息子が小学校の 5 年生の時、夏休みの自由研究で、親子で石橋を探しながら見て廻りました。その後、なぜ、院内に石橋が多いのか？　石は、どこから切り出してきたのか？　どんな歴史があるのか？　などの疑問を明らかにしようと研究を深めてきました。

石橋の歴史について

石橋は文字通り、自然石や加工した石を積み上げて造っていますね。君たちが見て来た鳥居橋の下を流れている恵良川の、両側の集落の人たちが行き来するためには橋がいるでしょう。今の石橋が架けられる前は

ポンジュガール

木の橋があったんですよ。しかし、洪水で何回も流されたそうです。流されない、頑丈な橋が地域の人たちの願いだったんです。

近くでタービン式の水車で精米業を営んでいた都留清一郎が、石橋の設計をしました。すぐ横の両川小学校の運動場に実物大の設計図を描いたというエピソードが残っています。それを見て、松田新之助が、「これならいける。立派な石橋を造りましょう」と、二人はしっかりと握手をしたそうです。1916 年（大正 5 年）に鳥居橋が完成しました。「架設 100 周年記念」を昨年、2016 年（平成 28 年）10 月 30 日に地区民あげて記念のイベントをしたんですよ。

石橋の起源はヨーロッパですね。2 千年も昔、ローマ時代に、南フランスでローマ人が造ったポンジュガールという大きな水路橋が今も残っています。世界遺産になっています。アーチ造りの技術は中国を経由して、江戸時代に長崎の中島川に、華僑（中国の商人集団）の人たちが多くの石橋を架設しました。その様子を出島の役人だった藤原林七というお侍さんが、興味津々と観察していて、熊本・肥後で石橋の石工集団を養成したんですね。

院内には江戸末期に技術が伝えられ、打上橋を山村藤四郎が架設しました。それから明治・大正・昭和の中頃（32 年に裏谷橋）まで、多くの石橋が地元の農民によって造られていったんですよ。段々畑の中の小さな谷にはもってこいの、素晴らしい石橋だったんですね。明治 22 年に、5 つの村に区分けされ、それからそれぞれが地域の発展のために競争して石橋を架けたようですね。

平成 23 年に、院内北部小学校では、校庭の隅に親子で 2 連、12m の石橋「父の瀬橋」を造っていますよ。この次は見に行きましょうね。

院内町には、アーチ橋が 65 基、桁橋が 11 基、合わせて 76 基現存しています。石造アーチ橋が 65 基は日本一の数なんですよ。なんでも日本一になることはめったにないことで威張っていいことですね。

松田新之助という、後に、石橋王と呼ばれた石橋造りの名人が、荒瀬橋や鳥居橋、富士見橋、御沓橋、隣りの村（現在の中津市本耶馬渓町）の耶馬渓橋（8 連で 116m）や羅漢寺橋など多連橋を多く架設したんですね。すごいでしょう！

分寺橋と取水口

そんな大きな橋造りに加勢した農民たちが、ついでに俺たちの家の前の谷にも架けちみろうや、ということで多くの橋が生まれたんでしょうね。

なぜ、石橋が多いの？

私は、院内に石橋が多く残っている理由として５つにまとめています。

①Ｖ字型の谷が多い
②石橋の材料にする岩石が豊富にある
③石工さんがおおぜいいた（農民石工）
④日出生台軍事演習場への通り道であった
⑤地域住民の熱意

①番目については、Ｖ字型の深い谷であることは君たちが見ての通りですね。石橋を架けるには最適ですね。

②番目について、材料にした石について話そうかね。

先日の NHK のテレビで見たんですね。日本列島は約１億年前にユーラシア（アジア・ヨーロッパ）大陸から地殻変動によって日本列島が生まれ、さらに太平洋のかなたから日本海溝に太平洋プレートが押し込まれて出来たのが今の日本列島になっているらしいよ。不思議だね。

この地域の地層は、宇佐層といって複雑な成り立ちをしているらしいよ。両子山系の地層もあり、宇佐連山といわれるドーム形の山があちこちにある。これは地下からマグマが盛り上がって生まれたといわれています。それで、大昔は安心院や院内は山に囲まれた大きな湖だったそうですよ。その証拠に、川底の粘板岩の中から木の葉などの化石が発見されるんですよ。

その後、妙見山と和尚山の間が決壊して、中の水が流れて駅館川が出来て、広い宇佐平野がつくられたと考えられています。

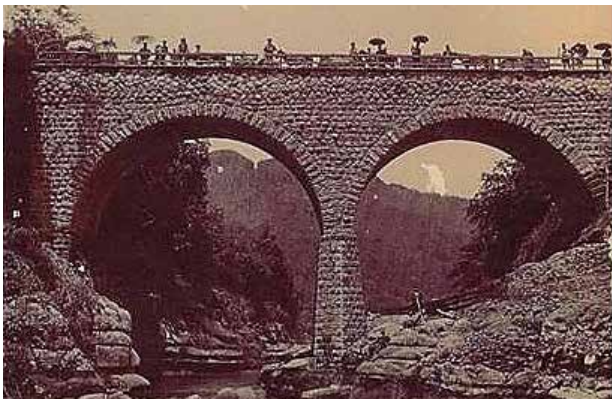
その後、約３～40 万年前に耶馬渓溶岩が流れてきており、その地層の上に約９万年前、地球の歴史から考えると、ほんのこの前のことですが、九州の中央にあった阿蘇山が大爆発をして、今でも大きな外輪山が見られますが、火山灰が降り積り、火砕流が流れて来て、大量に堆積して出来たのが、阿蘇熔結凝灰岩なんです。その岩山がこの院内にはたくさんあるのです。内部でゆっくり冷え固まった上質の岩石を切り出して、墓石や段々畑（棚田）の石垣、そして石橋を造るのに使ったのですよ。

石橋を造ろうと思ったら、３～400 m以内の近い所に材料の石山がないと採算にあわないと言われていました。今でもそうした石切り場の跡がたくさん残っています。これが③番目の理由です。

段々畑（棚田）と両合川橋

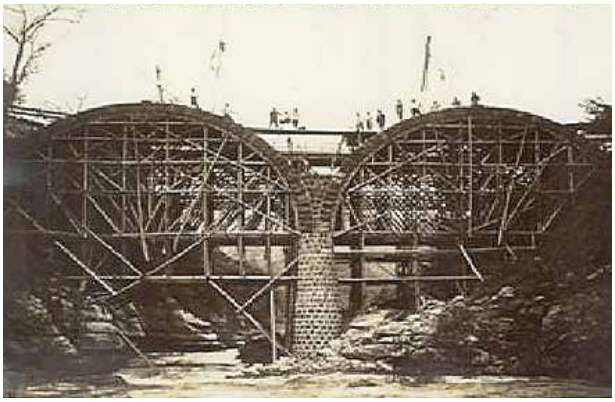
日出生台への道

院内に石橋が多い④番目についての理由ですが、ここに荒瀬橋架設中の非常に貴重な写真があります。



（写真1）荒瀬橋・大正２年架設

（写真 2）荒瀬橋の改修中　昭和 13 年



（写真 3）荒瀬橋の拱環石（輪石）工事完了

（写真 4）荒瀬橋の工事・測量中

（写真 5）荒瀬橋の三代渡り初め式・昭和 14 年

（写真 1）は大正 2 年に架設した当時の写真です。元日本陸軍の兵隊さん達が日出生台で軍事演習をするための重い大砲を運ぶために頑丈な橋を必要として、東院内村村長・加来守一が中心となって架けた石橋ですよ。

橋脚の上流側が、船の舳先のように先が尖っていますね。そして側壁（壁石）の下の部分はきれいに加工した間知石を水平積みにしていますが、上の方は自然石の乱積みです。資金が続かなくなったからですよ。

（写真 2）から（写真 5）は、昭和 13 ～ 14 年にかけて改修中の写真です。「お父さんが写真屋じゃった」という先輩・浮城昭二さんのアルバムにあったものです。足場を組み橋脚を造り、支保工の上にアーチ（拱環石、輪石）が出来上がり、お祝いの幟旗が立っていますね。エプロン姿のおばちゃんたちが手伝っていて、シルクハットの技師さん、三代渡り初め式など戦前の様子が見られますね。

小倉の北方砲兵連隊が日出生台で軍事演習、射撃訓練をするために日豊線柳ヶ浦駅で大砲等を降ろし、駅館川に沿って山中部へと行軍したんですよ。その道筋の白岩橋や櫛野橋、荒瀬橋、分寺橋、それから土岩屋橋は重要な橋だったんですね。

「院内の石橋物語」を発刊する

私は、石橋の貴婦人・鳥居橋に出会ったのをきっかけに、日本一の数を誇る院内の石橋を研究してきました。ひとえに、先人の素晴らしい偉業を知ってもらうために、また地域の大切な文化財である石橋を通して、中山間部の農業だけでなく宇佐平野の農業、そして農業遺産を考えて欲しいためにまとめた本です。

地域の文化総合誌「宇佐文学」に連載させてもらっていますが、昨年の 10 月 30 日に、鳥居橋架設 100 周年記念事業にあわせて、それまでの文を 1 冊にまとめて発刊しました。多くの方々との出会いとふれ合い、そして語り合いが私の喜びになっています。

名人と著書「院内の石橋物語」

石橋の未来

院内のほとんどの石橋は、現在も生きて働いていますよ。地域住民の重要な架け橋です。石橋の水路橋もたとえば、宇佐平野の駅館川東側の 600ha の水田に水を供給している広瀬井路に架かる北山水路橋は、今でも滔々と水を流していますよ。1866 年（慶応 2 年）架設ですから 150 年も前ですよ。それでも頑張って働いてくれていますよ。偉いですよ。機会があったらぜひ見に行って下さいね。

平成 25 年に国土交通省の委嘱をうけて「歴史的風致維持向上推進等調査―院内石橋プロジェクト」がスタートしました。嬉しかったですね。石橋が大切なことが認められたんですよ。すべての石橋に光を当てて保存するための調査をしているんですよ。

今年の 5 月 13 ～ 14 日に、「第 38 回日本の石橋を守る会総会」が院内でありました。地域の多くの住民も参加し、関心も深まってきています。

これからの私の夢

地元の小中学校や高齢者学級などに、石橋の出前講座に出かけて楽しく話し合えることも私の生きがいです。特に君たちのように若い人が、石橋に関心を持ってくれることが嬉しいですね。

「人は好奇心を持って、いろんな事に挑戦してみる。そうすれば長生きできる」といわれていますね。

私は、好奇心は旺盛であると思っています。私の家の裏に「フジバカマ」を植えています。毎年、アサギマダラが飛んでくるんですよ。石橋の周辺にフジバカマをいっぱい植えて、アサギマダラを「石橋の里　院内」に呼び込みたいね！それが私の夢です。君たちも応援してくれるかな。

アサギマダラとフジバカマ

〔取材日：2017年9月11日・10月30日〕

Profile

向野 茂【むくの しげる】

生年月日：昭和10年2月8日
年　　齢：82歳
職　　業：農業

略歴

▶宇佐市院内町新洞に奥さまと在住。四日市高校から大分大学に進学し、小中学校の教員に奉職。退職後に「院内ふるさとガイド教室顧問」「院内石橋群景観保全協議会委員」「日本の石橋を守る会」なども務め、長年にわたり石橋の保全や顕彰活動に取り組んでいる。

【取材を終えての感想】

鳥居橋を見て石橋の魅力を感じ石橋の研究をはじめた向野さんは、石橋を減らさないで保全することに強い思いがあると感じました。私がはじめて石橋を見て回ったとき水切台と側壁は違う石が使われていることに気づきました。橋を支える場所で石の種類を変えることは、石橋を美しく丈夫にするため今のように機械が充実していなかった時代の日本人が考えた知恵なんだなと思いました。この向野さんの活動や思いがもっと若い人や高校生に拡がっていったら良いなと思いました。

（2年　植垣 小雪：写真右）

今回が、初めての経験の聞き書き活動でした。上手にインタビューができるか、上手にまとめることができるか、とても不安でした。しかし、向野さんはとても優しくて、質問した後には詳しく丁寧に教えて下さったり、わかりやすい資料を準備していただきました。インタビューをするにつれ、向野さんの石橋をいろいろな人に広めたいという気持ちが伝わってきました。本当に石橋が好きなんだ、と思いました。今回の活動を通して、私も石橋の魅力について知ることができました。さらに、多くの人に、そのことを知ってもらいたいと思いました。活動に携わってくれた方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

（1年　西尾 隆馬：写真左）

１日目で、橋の種類や構造、構成などを聞き、すぐにでも実物を見たいと思いました。向野さんの話を聞いていくうちに、石橋に対する考えに変化が出てきたようでした。世界史の教科書で見たローマの水道橋の話に触れ、パネルを見てびっくりしました。見学の日は、実物を生（なま）で見れ、大変楽しく過ごせてありがたかったです。写真とは違って、すごさを実感できました。石橋の上に立って下をのぞいてみると、手すりが低く、怖かった気がします。山間にある小さな石橋が、とても印象深く感じました。いろいろと橋や道路ができている今、この先、石橋を残していけるかなと心配もしました。２日間、インタビューや見学の説明から、お付き合いいただき、すごく感謝しております。

（1年　宮脇 海：写真左から2人目）

農業・農村の未来のために
～安心院のグリーンツーリズム～

宮田 静一（大分県宇佐市安心院町）
聞き手：加来 健史・藤田 統也（大分県立安心院高等学校 普通科）

グリーンツーリズムの始まり

私の名前は宮田静一です。昭和 24 年 9 月 20 日生まれで今年で 68 歳になりました。出身は長洲で、大分県宇佐市安心院町に住んでます。中学は長洲中学、高校は中津北高校です。大学は日本獣医畜産大学です。当時大学 3 年生の時にですね、「安心院の広い土地でぶどうを作る話があるけどあんたどうするかえ？」と聞かれて、母親は反対していましたが一生に一度のチャンスと思って決心しました。今から 45 ～ 50 年位前にね、安心院町全体での国営パイロット事業で約 350ha、350 件のぶどう農家が立ち上がりました。しかしそれが 20 年も過ぎると半減することがおこりました。その時にグリーンツーリズムを立ち上げたということですね。当時から日本でも個人でぱらぱらやっているところはありましたが、組織としてグリーンツーリズムを立ち上げたのは初めてです。平成５年のことです。

最初は多かった反対の声

グリーンツーリズムを始めた最初の頃は反対の声が

西日本有数の生産量を誇る安心院のぶどう

多かったです。グリーンツーリズムは何をすることか簡単にいうと、旅行者を農家に泊めるということですが、これはそれまでの農家の在り方とは大きく外れたものです。それまでは自分が作った物を売り、食べる、というものでしたが、大きく違うため反対の声が多かったです。「農家が人を泊めてお金をもらうのはおかしい」「農家の沽券に関わる」「落ちぶれたものじゃ」など様々なことを言われました。新型宗教と間違われたこともありましたね。前年に『地下鉄サリン事件』

があったんです。オウム真理教が地下鉄の車内でサリンを撒き、大勢の方が被害にあった事件の、その影響で、第１回の定例会の時に、教師の夫婦が来て「この会はおかしい」って何度も言うんですよ、「青年団も婦人会も人がおらず組織が成り立ってないのにこんなに人が集まるのはおかしい」ってね。当時いろんな会が人員不足で、疑われてもしょうがないといえばしょうがなかった。けど、あまり気にはならなかったね。新しい事業を始める以上、こんな風に反対や変な勘違いをされるかもしれないって覚悟はしてたから、まあ大丈夫でした。

大分県グリーンツーリズム研究会の設立

法律を変えなければ日本には広まらない

グリーンツーリズムの一番の壁は法律やったね。今は法律が変わって、人を泊めやすくなった。けど当時は難しかった。だからあまり広まってなかった。

2002 年に 6 年間やっていたグリーンツーリズムが法的認知を受けました。6 年間は法律を違反していましたので、まさかいきなり警察が来ることはなかろうと思っとったけど、いつ保健所が来るのか不安でしょうがなかったね。けどマスコミや新聞社がずっと応援してくれました。

私、今大分県のグリーンツーリズム研究会の会長をしていますけど、これ元々は安心院方式で、農家が人を泊めるための法的認知のために立ち上げたものです。最初にお客さんを泊めて「法律を変えなければ日本には広まらない」とすぐ思いました。法律が変わる前は台所、部屋なんかで制限が多かったんよね。だからやってる所が少なかった。

最初の 6 年間は安心院しかグリーンツーリズムをしていなかった。けど海外では違ったんよね。ヨーロッパ辺りでは昔からグリーンツーリズムが盛んやったんよね。ドイツでは 8 人、オーストリアでは 10 人までなら許可が必要ないんよな、日本とは大きく違う。当時は法律を違反しないようにするんじゃなくて法律そのものを変えなければならないと思ったね。

ヴィルティンゲン村のヴィンガー家の前で

ドイツにおけるグリーンツーリズムの発起人シャウマン夫人

簡単にはいかないだろうと思ってた、けど予想よりも、かなり早く法律が変わったんよね。いやあ拍子抜けしたよ、あと 10 年はかかると思ってたからね。けど、むしろここから始まりと思っとったね。

ヨーロッパではグリーンツーリズムは
①女性が主役である　②農村民泊である　③農産物の直売である

安心院方式農村民泊の法的認知は、住民運動で実現した

平成 14 年3月 28 日のグリーンツーリズム通知後、平成 15 年に大分県議会に1回目の請願書を提出

人の心は農村でしか癒せない

立ち上げて 5 年位経った時にこんなことを言われました。「宮田さん、安心院は山と川と田んぼしかないのによく有名になったな」。これはグリーンツーリズムのことをうまく言い表しています。グリーンツーリズムは景観や人が、資源なんですよ。有名な観光場所がなくても人は来る。人は癒しを求めてるんですよ。旅行で観光するのもいいですけど、農村で自然に囲まれて、そこに住む人と過ごした方が人の心癒せるんよね。フランス辺りでは早くからそれがわかってた。だから農村の景観を守るためにガードレールなんかの人工物を極力作っていません。事故が起きてもそれは自分たちの責任みたいな感じになっています。

平成 17 年 11 月に小泉首相に直訴

グリーンツーリズムをする農家は

グリーンツーリズムはね、なにもすべての農家がするべき事ではないと思うんよ。グリーンツーリズは農業だけでは食って行けず、別の仕事もしなければならない兼業農家がすればいいと思ってる。農業しかしない専業農家は農業だけで良いと思います。グリーンツーリズムは兼業農家が、農業以外で働かんといけない時に副業的にやったらいいと思ってる。実際にグリーンツーリズムが盛んなヨーロッパ辺りでもそうなんよね。グリーンツーリズムはあくまで農村地域の維持、そして活性化のためにあるものやからね。

そしてグリーンツーリズムをするときには気をつけんといけんことがあるんよ。それは他人の失敗を自分のものとすること。実際にあったことなんやけど、イタリアで宿主が隣の宿の悪口を言ったんよね。そしたらそれをきっかけにどんどん利用客が減っていったんよ。決して陰口はきくまい。

日本とは違う海外の状況

ヨーロッパあたりではバカンス法のもと、日本よりもとてもグリーンツーリズムが盛んです。たとえばオーストリアではベッドの数が都市に約 60 万、農村地域には約 30 万あります。だいたい2倍の差がありますが、国民の 7 割が旅行で農村地域に行くといわれています。日本とはずいぶん違います。日本では旅行で農村地域に泊まりに行くことは少ない。日本の旅行者は東京スカイツリーとかの観光名所に行くけど、あなたはどうですか。

グリーンツーリズムがもたらすもの

グリーンツーリズムがもたらすものは農村地域の維持・活性化だけではありません。昔ヨーロッパに研修に行った時に市長にこんな質問をしました。「どれくらいの人がグリーンツーリズムに関わっています

か？」。この質問に対して「100％ですよ」「他に答えがありますか？」とあきれたように答えました。

平成 28 年 12 月ディスカバー農山漁村の宝 交流会にて、安倍首相にバカンス法批准を直訴

平成 28 年 7 月　多くの皆さまのおかげ・応援で新事務所ができました

農業を守るための宿、農業を維持するためのグリーンツーリズム

以前にね、「グリーンツーリズムは農業をダメにする」って言われたことがあるんよね。けどこれは違うんですよね。何度も言うけどグリーンツーリズムは農業を維持するためのもの、農業の邪魔になるようなものじゃない、人が泊まるとね、物や食材が売れてお金が潤うんですよ。そうすれば農家にも経営が厳しい時にお金が入るし、町にもお金の巡りができて町が活性化する、そうして経済が良くなっていくんよね。

以前は国も農業の未来をどうすりゃいいのだろうかと悩んでました。けどそのなかでかすかにグリーンツーリズムの光がみえたんよね。農村地域に人が泊まるようになれば農村地域が活性化する、物が売れて経済が回る。グリーンツーリズムはいいところがたくさんあるんよな。

以前政治家の石破茂さんが「グリーンツーリズムは農村の生き方を変えた」と言ってくれました。グリーンツーリズムは今までの日本の農村の在り方とは大きく違うものです。しかし、グリーンツーリズムは今まで暗かった日本の農村の未来を明るく照らしてくれるものでもあります。

グリーンツーリズムは農村の未来をかえたんですよ。

［取材日：2017年10月23日・11月15日］

典型的な安心院の農村風景

安心院方式の農村民泊を紹介した書籍
（右が名人の書かれた本）

Profile

宮田　静一【みやた せいいち】

生年月日：昭和24年9月20日
年　　齢：68歳
職　　業：ブドウ農家

略歴

▶長洲中学校卒、中津北高校卒、日本獣医畜産大学卒、ぶどうを作って45年。
平成5年アグリツーリズム研究会発足から現在まで研究会の代表を務める。
平成15年国土交通省・農林水産省認定の観光カリスマ100選に選ばれる。

【取材を終えての感想】

私は今回の聞き書きに参加して良かったと思います。今まで知らなかったことを多く知ることができました。グリーンツーリズムという名前は知っていましたが、具体的にどんなことか知ることができました。その中でグリーンツーリズムは農業の未来を変えるものだと知り、とても驚きました。そして話を聞いていくうちに宮田さんの今までの苦労、かける熱意が伝わってきました。今回の体験を通して、ただ知識をつけるだけではなくたくさんのことを学べたと思います。

（1年　加来 健史：写真左）

私は今回はじめて「聞き書き」という体験をさせていただきました。最初は不安なことだらけで、とても心配でした。ですが、取材をしていく中で、そんな不安もなくなっていきました。今回取材させていただいた宮田さんは、私たちの質問にも優しく答えてくれました。そこから宮田さんの今までの苦労がとても伝わってきました。今回の体験を通して私はたくさんのことを学ぶことができました。こんな貴重な経験ができたことに感謝します。

（1年　藤田 統也：写真右）

ブランドねぎ作りを次世代へ

～生産拡大と大学との交流～

長廣 正光（大分県国東市武蔵町）
聞き手：柴田 恭典・四丸 博海・矢野 幸四郎（柳ヶ浦高等学校 普通科）

ねぎとの出会い

長廣正光です。昭和 21 年 8 月 2 日生まれの 71 歳です。家族構成は私と妻と長男 41 歳、おばあちゃん 94 歳の 4 人暮らしです。

小学校は武蔵西小から中学校は武蔵西中、高校は国東農業高校で昭和 40 年卒。家から出たことはありません。この地区で生活しています。

我々の時代はスポーツはあまりありませんでした。小学校のクラスは 72 人で休み時間にソフトボール、ドッジボールをしたり。中学校は柔道部に入っていました。高校に入ってから陸上部で長距離をやってました。

私が高校卒業した時期はみかんブームで、うちでも 1 町 5 反みかんを作ってきたんですけど、みかんが大暴落しまして。これじゃ生活ができんのじゃなかろかということで、牛を飼ったりしたんですけど、やっぱしお金がとれないので、どうしようかなと思っちょった。そのときに武蔵町に大阪から、誘致企業が来たんですよ。工業ミシンの部品をつくる誘致企業が来まして、私は、そこで 10 年間勤めまして昭和 58 年に退職しました。

これから「何をしていこうか、何を作っていこうか」と考えましてみかんもあったんですけど、どうやって農業で食っていこうかと言ったときに、武蔵町では小ねぎ作りを推進しておったので小ねぎ作りに取り組みました。

現在は、小ねぎと稲をちょっと作ってます。今年は稲を 1 町 9 反ほど作っています。1 反は 10a の広さで、反当たり 30 キログラムの袋で 15 俵くらいとれます。

長廣さんの自宅での取材の様子

様々なねぎを作る生き方

ねぎの品種はいっぱいあります。どのぐらいあるかな。ねぎ部会で皆さんそれぞれ好きなやつを作るので15 種類ぐらいあるんじゃないかと思います。その中から自分が好きな品種、色が出やすいとか、自分に合った品種を選んで作っています。品種の名前は、「若殿」やら「ダークスリム」、いろいろあるからね。それぞれ夏に向く品種、冬に向く品種があります。味一ねぎでは今５種類ぐらい作ってるな。「ダークスリム」、「パワースリム」、「若殿」、「緑種」とか、その時期その時期で違うけんな。

種苗会社もいっぱいあってな。種苗会社が毎年毎年のように品種を変えてくるんよ。やっぱり買ってもらおうと思うと、「昨年のどの種よりいいですよ」っち。そのたびに名前つけてくる。品種が変わって味は違うと思うけど、味をあんまり言わんのよ。まず一番の違いわな、根が長く土の中に入る品種と入らん品種がある。だから長く入らん品種は抜くとき楽なんよ。長く入る品種は抜くとき切れたりする。あと違うのは、葉がまっすぐなったり、ちょっと曲がってるのがあったり。よくできても、葉枯れのようにちょっと葉先が黄色くなるやつとかいろいろある。なぜ植えるのかちゅうと、それは倒れにくいから。

品種には特徴がある。色が出やすいとか、細身のねぎになるとか太身のねぎになるとか、いろいろ。

出荷のため箱詰めされた自慢の味一ねぎ

ねぎ農家の日課

長男が３年ほど前から跡取りとしてねぎ作りをしています。あとは、嫁さんも合わせて３人で作ってます。それと、皮むきの調整作業をしてもらってるおばちゃんが４人パートで来ています。

全部農協系列に出荷します。軽トラに乗せて毎日持って行っています。

それぞれの農家が自分のとこにあった時間帯で作業しています。我が家では朝２時起きです。ねぎに合ってるっちゅうより、こっちの作業時間に合ってる。１日で調整ができる量を持って帰ります。だからうちに帰るのが平均して、３時 30 分ぐらいじゃな。それからニュースや天気予報を見てからまた寝ます。私は６時半ごろに起きます。それが毎日の日課になっています。というのも、前は５時に起きたり６時に起きたりいろいろ試してみたんやけど、その時間だと仮眠する暇が無いんよな。それだとどうしても疲れる。だから２時に起きていったら帰ってきてちょっと仮眠出来るので全然疲れない。

ねぎの一年の計画～種播きから収穫まで～

小ねぎは幸いな、一年中種を播けます。冬でも夏でも毎日種を播けるので、一年中収穫です。播種計画を立てて収穫は毎日します。種播きをしてから収穫まで夏場 50 日の時もあるし 70 日かかる時もあるし、だいたい平均したら４月ごろ播くのは 60 日で収穫に入る。だから、稲植え時期にちょっと暇つくろうかなと思ったらその前に計画を立てて 60 日前から収穫のないように播く。計画は立てられるけど稲植中でもなんでも一年中収穫せんと、我々は作っていく側じゃけんな。で、出荷してお金を取る。ほとんどは、稲の仕事は一人で全部やるんやけど、私は調整場に入らんからもう、ねぎを作ることばっかりやから、その時間は、自分で工夫してな。自分が何もかも計画してやってます。

様々あるねぎの種（左より:福おとめ、若殿、ダークスリム、ストレート）

小ねぎはな、播いてからある程度大きくなって出荷前には緑の濃い色を出した方がいい。そして、ブルー

ムがついて、白粉がふくっちゅんかな。見た人が病気じゃないんかって言うけど病気じゃないんよ。自分で自分を守るためにブルームちゅうてちょっと粉がつくんよ。そういう状況を作るためには低い畝では雨が降ったときにすぐ湿りこむんよ。そしたら、水分があるとそういう状況にならん。だからほとんどの人が高畝にしてる。高畝も良いとこもあるけど悪いとこもあるんやけどな。まあ灌水しても夏場やったらすぐに乾くから、しょっちゅう水をやらんといけん。

ハウスを年間に平均３回くらい使う。春播いて夏播いて冬播いてまあ３回使う。種子を播いてから、夏場で 60 日播いてからな、冬場になるとまぁ、120 日くらいかかる時もある。８月くらいは、70 日くらいでいけるけど今から先 11 月末になると４ヶ月くらいかかる。寒い時期になるから。夏場では芽が出るのに３日くらいで出てくる。芽が出るのに一番寒い２月なんかは 20 日くらいかかる。20 日くらいたっても出てこん時もある。寒いからな。まず、土の中に種があると根がでて、上に芽がでてくるきな。ほとんどの植物は根がのびて葉っぱが上にくる。

忙しいのはやっぱ６月やな。稲植えの時期じゃわな。一緒に作業できんからな。ねぎは、毎日引くし、ねぎを引いたら今度、根洗いせんといけんしな。４人のおばちゃん達が朝８時から５時までパートで来てくれよるから、それだけの仕事の段取りをせんといけんの、夜に。ねぎを引いてきて、「今日はこれくらいであるかな」とか、毎日毎日。「昨日は、少なかったから４時に帰ってもらったよ」とか、「ちょっと残ったよー」とかあるから、毎日毎日ねぎの状態をみながら収穫をやる。あとは稲植えの準備もせんといけん。稲植えの準備で一番大事なのは、田んぼの中をトラクターでかき回して、仕上げとか稲植えが出来るまでの準備が大変。もう、稲植えになると、もう植えるだけやから楽じゃけどな。その間に、苗づくりせんといけんの、夜に。稲の苗づくりも、並行してやる。

薬味だけじゃない！ねぎのおいしい食べ方

ねぎの一番おいしい食べ方はまぁいろいろあるけどな。簡単で一番おいしいのは、かき揚げ。ねぎのかき揚げな。一番それが簡単な。まぁあとは、自分たちがいつもするのは薬味やな、小さく切って刻んでみそ汁に入れたり。かき揚げは５センチメートルぐらいに切ってな、小麦粉の粉を溶かして、まぶす。それをちょっと油の中に入れて、揚がったら食べるのが一番簡単やな。他にも食べ方はいろいろある。ちょっと面倒やけど、しゃぶしゃぶにしたり。最近ちょっと流行ってるのがな、ねぎのジュースかな。スムージーちゅうのが流行っちょる。

でも、生！生が一番いいよな、食べるのは。生で野菜類はほとんど食べられるんじゃけど、ホウレンソウやレタスでもいろいろあるじゃろ。ちょっと茹でても食べられる。サラダなんかもうほとんど生じゃな。だけど、生じゃったら、よけ（たくさん）食べられんのよ。熱を加えたら小さくなるからいっぱい食べられる。小ねぎでも 100 グラム１束、薬味で食べる人はおらんと思う。やけど、今さっき言ったようにかき揚げなんかにしたら一晩あったらペロッと食べてしまう。もう、熱を加えたら食べやすくなるし、ちょっと小さくなるっちゅうかな。そういう食べ方をいろいろ考えてな、お客さんに、いっぱい食べてもらおうっちゅうことを、今しよるわけ。

絶品！ねぎのかき揚げ

出荷方法の変化

基本的に、その日にとってその日に出荷。東京に送ってます。

広島とか宇部とか大阪にも送るけどもうほとんどの小ねぎが東京です。３日目には、お店に並びます。東京の店にな。

「武蔵ねぎ」の時は、ジェット機で全部行きよったんよ。ねぎを作り始めた時のキャッチフレーズが「90 分の新鮮さ」っちゅうんかな。工業団地ができて工業製品が大分空港から行くようになった。工業製品は、少量でも重たいやろ。重量で運賃をとられるんよ。だからねぎは、かさばちょって軽くて場所をとるから、

後回しにされだしたんよな。航空会社もお金を儲けないかんからな。場所をとらなくて重いもののほうが良いわけ。貨物を詰み込むのにな、いっぱい詰めるわけ。ねぎはトラックを使うほうが運賃が安いんよ。東京まで行っても、ちょっと時間がかかるけどな。その方が直接、市場までつくからな。保冷車でいくから。飛行機は保冷をしてくれんからな。積み下ろしの時も夏場だったらもうガンガン照る日の中での扱いやからトラック便で行けば保冷車でずっと冷やしながらいくから傷まん。そして運賃が安い。やから、現在もトラック便で行ってます。

荷物が間に合わないときは、フライト便で。ねぎもぜーたくじゃ。ジェット機で行くんやき。

ねぎの調整作業場：根洗いの様子

季節で変わるねぎ

値段が良いのは、季節にもよるな。やっぱし夏場はちょっと値が良いな。夏場は、作りにくいんよ、暑いから。ねぎちゅうのは、冬のもんじゃきな。冬にしか作ってなかったもんを、無理して、夏場作ってるちゅうかな。そういうことで、量も少なくなるけど、需要もあるんよな。そば等食品の薬味として使うけな。冬場寒くなると、うどん食べたりするのに薬味でいっぱい使う。鍋物でもいっぱい使う。

季節でも、夏場が値がいいからちゅうてな夏場に狙うとほかの野菜がいっぱい出てきたときには安い。だから最近集中豪雨あったわな。津久見とか佐伯、今度やられたけど、前には熊本地震とかあって台風のときには福岡もやられたわけやな、大雨で。「万能ねぎ」ちゅうて大産地がある。日本一のな。そこがやられて、大分はやられんやったけど、ガクーンと出荷量が減ったんよ。

そんなときは値が上がるけど、ほかの野菜とも関連して野菜がいっぱい、白菜、ホウレンソウやレタスなどでてくるときは安い。安くなるわな。気候もあるしな。

ねぎも天候不順とか虫にやられたり倒れるんですよ。防除が遅れたり曲がってしまったりしたやつは、出荷できなかったり、出荷するのに時間がかかるから捨てる。

他の野菜と影響して値が上がったり下がったり。だから 1 年中平均して出荷しないと高い時にお金とれんときもあるわな。安いときばっかり出荷しよって高くなったらねぎの出荷がない時もある。

進化する肥料

最近は 3 要素、窒素・リン酸・カリ（カリウム）。そういうの含んだ肥料がほとんどやけんな。肥料っちゆうても 3 要素含んでる、普通の肥料やけんの。有機質肥料。油カスとか、魚粉とか、そういう有機質。前は、化学肥料合成した肥料が主体やったんやけど、最近は、100 パーセント有機の肥料。ねぎに優しいっち言うかな。やから、毎年毎年何十年も作り続けんといけんから土が傷まないような肥料。堆肥もたくさんやるし、化学肥料から有機肥料に変わってきた。その代わりちょっと多めに入れてるな。肥料分が、効きがちょっと鈍いちゅうかなそういうとこがあるな。

ダークスリムの種を播いた奥行 50 m程のビニールハウス

武蔵大学との交流～１日の流れ～

武蔵大学との交流は、我々がねぎを作り始めてちょっとしてからな。武蔵町と同じ名前の東京の武蔵大学があるちゅうことで交流が始まったんよ。両方武蔵やきな。

だから、だいぶなるな。私が受け入れをはじめてか

ら27年。

その前から、武蔵大学のほうから「農業体験をさせてくれんかな」ち来だしたんよ。

そのときは武蔵町やったから武蔵町で受け入れしましょうち、その頃はもう20何人来よったんよ、学生が。3名ずつに分かれて各農家に2日間ほど農業体験で来よったんよ。

そのころ町村の合併時期がきて武蔵町は予算がなくなったから、受け入れができん事になったんよ。だけど今の担当者の丸橋珠樹さんから電話があって「なんとか農業体験をさせてくれませんか？」と相談があった。「いやー、先生、泊まってする仕事はたいへんやからなー」っち話をしたんやけど「公民館に泊まってもいいから、行きたいんです」ちゅうから、そんなに言うなら来てください。それが10年くらいなるかな。武蔵大学の人が来る1日目はな、東京から、飛行機で来ます。現地集合で大分空港に集まる。だから、ほとんど一緒の便で来るけど飛行機がちょっと違う人もおる。6名から7名、先生入れて8名のときもある。やから、現地集合で来て研修が5日くらい国東におるんやけど帰りも空港で解散。それから、それぞれ行きたい場所があれば東京に帰らんであっちこっち見学して帰る。自由行動な。一昨年来た人は、別府の地獄めぐりに行きたいちゅうからそこまで連れて行ったな。それから、鹿児島に行ってロケットの打ち上げを見たいちゅうて夜行バスで見に行ったな。

研修の1日目はな、先生が来てから車を借りて、最初は市役所に行って挨拶したりいろんな所に行って段取りを決める。終わったらまず、国東のいこいの村に行って、風呂に入る。それから、我家で夕食を食べて丸小野の公民館に泊まる。それが、1日目な。2日目の朝は、我家に来て朝食をとる。それから、それぞれの場所に別れて農業体験をする。前は、一日中しよったんやけど今は午前中、農業体験して昼ごはん食べて、午後からは食の研修をしてる。家ではうどん打ちや餅つきとか、ご飯を炊いたり魚を捌いたりする体験をしてもらってる。夕方になってからいこいの村まで行って、風呂入ってからみんなで我家で懇親会をして2日目は終わる。3日目の朝はまた家に来て朝食を食べる。食べ終わったらだいたい西の関酒造に見学に行ったり、七島藺を見学して昼ごろはもう宇佐のほうに行って、昼ご飯を食べる。それから、高田に民宿があって、そこで2泊する。高田に行ったら、農業体験が見学な体験をしよる。だから、武蔵の場合は、直接、農家の家でねぎ農家やブドウ農家に入って、作業させてもらいよん。収穫や出荷前の選別作業とかをやってます。

長廣さんご夫婦と今年度参加した武蔵大学生との集合写真

次世代へ繋げる農業～未来への想い～

まあ、「大分味一ねぎ」はブランド化してな。大分県で一つになってるんよ。「味一ねぎ」と「武蔵ねぎ」が合併しました。合併して10年なるんよ。売上額は10億円目指して皆で頑張っています。まぁ29年度、今年はなんとか10億円売上げできるんじゃないかな。みんな頑張っています。

〔取材日：2017年10月17日・12月6日〕

Profile

長廣 正光【ながひろ まさみつ】

生年月日：昭和21年8月2日
年　　齢：71歳
職　　業：農業・小ねぎ（大分味一ねぎ）栽培

略歴

▶大分県武蔵町（現国東市武蔵町）で生れる。地元で小中高と過ごし、稲作、みかん栽培を経て小ねぎの栽培に至る。旧武蔵町から続く大学との交流は27年目となり、農業大学校指導者としても後輩の育成を行っている。

【取材を終えての感想】

自分は初めての聞き書きで、とても不安でいっぱいでした。名人の家まで行きたくさんの質問をする中でとても興味深いことがたくさんありました。

１回目の取材で、たくさんの質問をして丁寧に教えてくださり大変わかりやすかったです。ハウスや選別の作業などお忙し中、見せていただくことができました。

２回目の取材が、突然決まり行くことになりましたが、不足した部分を聞いて、完璧に仕上げることができました。採れたてのねぎも頂くことができ、地域の方が料理を作ってくれました。生産者の想いを噛みしめながらおいしく頂きました。

この聞き書きに関係してくださった方々に感謝します。大変、ありがとうございました。

（1年　矢野 幸四郎：写真右）

……

今回、初めて聞き書きを経験させてもらいました。初めは、不安しかなく何をしたらいいかわかりませんでした。そんななか、長廣さんは、優しく丁寧に教えて下さいました。

１回目の取材では、まとまりきれてない質問でもわかりやすく教えていただきました。ハウスや選別の作業なども見せていただき大変勉強になりました。

２回目の取材では、急な取材にもかかわらず、たくさんの質問をより深く丁寧に教えて下さいました。少ない時間の中でとても貴重な体験が出来ました。

今回は、自分の地元の国東市でしたがまだまだ知らない事がたくさんありました。聞き書きを通じてたくさんの事にふれることができました。素晴らしい体験をさせていただき長廣さん、関係者の皆さん誠にありがとうございました。

（2年　四丸 博海：写真右から2番目）

……

私は、今回の聞き書きが２回目で、後輩に教える立場になりました。まとめる作業は、初めての時よりスムーズにすることが出来ましたが、やはり、苦労しました。

私たちは、ねぎ農家に取材に行き、長廣さんのお宅を訪問し味一ねぎの魅力を体験することができました。

２回の取材をして、長廣さんの想い、味一ねぎの魅力、他にもたくさんの事を学ぶことができました。これから先の私たちに何が出来るかを考えていきたいとおもいます。聞き書きに協力していただいた長廣さん、関係者の皆さん本当にありがとうございました。

（3年　柴田 恭典：写真左）

「聞き

SN

大変だけど
楽しかった〜

書き」

AP

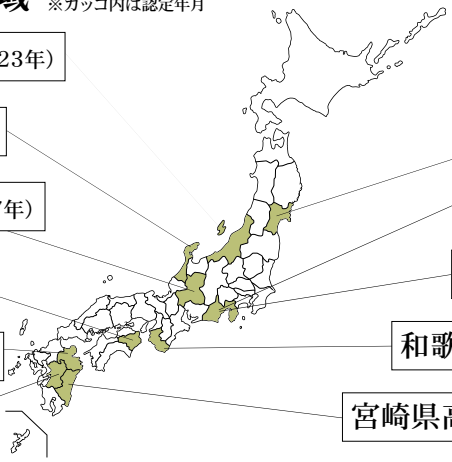
世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

世界農業遺産とは

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を国連食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。

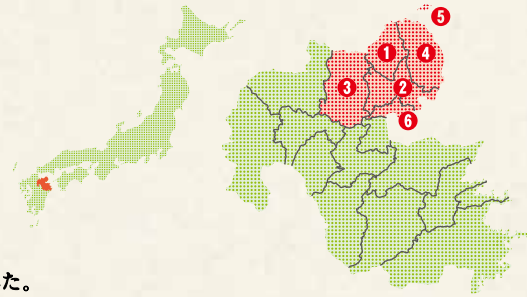
国内の世界農業遺産認定地域 ※カッコ内は認定年月



- 新潟県佐渡市（平成23年）
- 石川県能登地域（平成23年）
- 岐阜県長良川上中流域（平成27年）
- 徳島県にし阿波地域（平成30年）
- 大分県国東半島宇佐地域（平成25年）
- 熊本県阿蘇地域（平成25年）
- 宮城県大崎地域（平成29年）
- 静岡県掛川周辺地域（平成25年）
- 静岡県わさび栽培地域（平成30年）
- 和歌山県みなべ・田辺地域（平成27年）
- 宮崎県高千穂郷・椎葉山地域（平成27年）

クヌギ林とため池によって持続的に維持されている、日本一の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システム

降水量が少なく耕作に必要な水が不足する地域に
1200以上のため池を造り、連携させた用水供給システムを確立し、
水稲や国内唯一のシチトウイ栽培に計画的に配分している。
また豊富にあるクヌギ林を利用した日本一の原木シイタケ栽培は
水田農業を補い、森の保水性を維持し、
ため池とともに貴重な給水源となり多様な生態系を育んでいる。
先人たちが営々と作り上げてきたこのクヌギ林とため池による
「循環型の農林水産業」の営みが世界的に価値のあるものとして認められた。



❶豊後高田市　❹国東市
❷杵築市　❺姫島村
❸宇佐市　❻日出町

◎面積：1,323.75㎢
◎人口：167,992人、
うち農林漁業者数10,208人
（平成27年）
◎気候：温帯湿潤気候
（瀬戸内海式気候）
◎主な産業：農林水産業、
精密機器の製造業

豊かな自然・産業を育むクヌギ林

明るいほだ場を活用し、高品質な乾しいたけを生産

現代に生きる中世の荘園〔田染荘〕

国内唯一のシチトウイ産地

表　紙

① 原木しいたけ
② ほだ場
③ クヌギとため池
④ 修正鬼会（しゅじょうおにえ）
⑤ 暘谷城跡からの眺望
⑥ 田染荘

裏表紙

⑦ ケベス祭り
⑧ 両子寺
⑨ 美迫池
⑩ しいたけの駒打ちの様子
⑪ 田染荘
⑫ アサギマダラ
⑬ 御田植祭

平成 29 年度

国東半島宇佐地域世界農業遺産
高校生「聞き書き」作品集

平成 30 年 3 月　発行

発行者：国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

【事務局】大分県農林水産部農林水産企画課世界農業遺産推進班
〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1
TEL 097-506-3525

印　刷：株式会社 プリメディア

禁無断転載 複写

※表紙及び裏表紙の下段写真については、国東半島宇佐地域世界農業遺産写真コンテスト及び大分の農業・農村写真コンテストの入賞作品です。

国東半島宇佐地域世界農業遺産
Kunisaki Peninsula Usa GIAHS